

六 此休暇中懲罰ノ犯行アリテ其罰輕管倉ニ該ル者ハ直ニ休暇ヲ止メ重管倉ニ該ル者ハ免許證ヲ收奪シ併セテ休暇ヲ止ムルモノトス若シ已ニ免許證ヲ得未タ休暇ヲ爲サハル前ニ於テ重管倉ノ罰ニ該ル者ハ其免許證ヲ收奪シ併セテ休暇ヲ止ムルモノトス違背罪ヲ犯シタル者モ亦重管倉ニ該ル者ト同ク處分スヘシ又陸軍刑法其他法律規則ノ罪ヲ犯シタル者ハ其所持スル免許證ハ悉皆沒收スルモノトス

第十條 總テ慰勞褒賞ヲ論セス休暇ノ日數ハ功勞行狀及ヒ學術技藝ノ程度ニ依リ等差ヲ爲スモノトス

第十一條 慰勞褒賞ヲ論セス休暇中在營スル下士卒ハ勤務演習ヲ休業シ其他ハ平常ニ異ナルコトナシト雖トモ朝食後ヨリ日夕點呼前迄外出ヲ許可ス又本人ノ願ニ依リ食料ヲ給スルコトアルヘシ

第十二條 慰勞褒賞ノ休暇ヲ併セ與フルハ勿論同種ノ休暇ト雖トモ二回ヲ併セ與フルコトヲ得ス

第十三條 請願休暇ハ時期ニ不拘本人ノ願ニ依テ許可ス其請願シ得ヘキ場合准士官以上ト下士以下トニ於テ區別アルコト左ノ如シ

一 准士官以上ハ歸省他行又ハ轉地療養其他事故アリテ休暇ヲ要スル時

二 下士卒ハ父母病氣或ハ死亡等ニテ歸省ヲ要スル時但隊外下士卒ニ在テハ本文ノ外醫師ノ診斷ニ依リ轉地療養ヲ要スル時

第十四條 請願休暇出願及ヒ之ヲ許可スルハ左ノ項目ニ依ル

- 甲 將官並相當官ハ陸軍大臣ヲ經テ内閣ニ申請シ認可ヲ請フヘシ
- 乙 陸軍省並其所轄官衙ノ上長官士官准士官ハ左ノ項目ニ依ル
 - 一 本省出仕ノ准士官以上ハ其局長總務局長ヲ經由シテ總務局長ニ請願スヘシ
 - 二 所轄官衙ノ准士官以上ハ其長官ニ請願シ同官之ヲ許可ス其長官ニ在テハ陸軍大臣ニ請願スヘシ但監警部長ハ豫メ都督師團長ノ認可ヲ經テ請願スルモノトス
 - 三 軍吏軍醫學舍ノ准士官以上ハ學舍長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ學舍長ヲ經テ所屬局長ニ請願スルモノトス其學舍長ニ在テハ所屬局長ニ請願スヘシ

四 省内各局所屬ノ外官ハ其所屬局長ニ請願スヘシ

- 丙 陸軍參謀本部並其所轄校部ノ上長官士官准士官ハ左ノ項目ニ依ル
 - 一 本部内ノ准士官以上ハ本部長ニ請願スヘシ
 - 二 陸軍大學校陸地測量部准士官以上ハ其長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ校部長ヲ經テ參謀本部長ニ請願スルモノトス其校部長ニ在テハ參謀本部長ニ請願スヘシ
- 丁 監軍部並各監所轄各校團會議ノ上長官士官准士官ハ左ノ項目ニ依ル
 - 一 監軍部參謀長各兵監タル上長官、戶山學校校長、教導團長ハ監軍ニ其參謀副官ハ參謀長ニ請願スヘシ
 - 二 各監ノ副官及ヒ諸學校長砲工兵會議長ハ其所屬監ニ請願スヘシ
 - 三 校團及ヒ砲工兵會議ノ准士官以上ハ各其長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ各其長ヲ經テ監軍若クハ各監ニ請願スルモノトス

戊 近衛各師團ノ隊附及ヒ無隊准士官以上ハ左ノ項目ニ依ル

- 一 步兵聯隊長ハ旅團長ニ請願シ同官之ヲ許可シ然ル後都督師團長ニ申報ス
 - 二 騎砲工騎重兵隊ノ隊長ハ都督師團長ニ請願スヘシ
 - 三 歩兵砲兵大隊長以下ハ聯隊長其他獨立大隊ノ中隊長以下ハ大隊長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ各隊長ヲ經テ步兵ニ在テハ旅團長其他ハ都督師團長ニ請願スルモノトス
 - 四 近衛及ヒ師團司令部准士官以上監督部准士官ハ都督師團長ニ請願スヘシ
 - 五 旅團司令部及ヒ大隊區司令部准士官以上ハ旅團長ニ請願スヘシ
 - 六 衛戍各官衙ノ准士官以上ハ該地衛戍司令部團隊長ニ請願シ同官ハ其權限ニ從ヒ之ヲ許可ス
- 己 下士卒父母ノ病氣或ハ死亡等ノ爲メ歸省ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作リ、病氣ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ、戶長區長以下之ニ同シノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ隊或ハ其所管ヘ差出シ隊附ニ在テハ聯隊長、獨立大隊長、其他ニ在テハ其所屬長之ヲ許可ス

右同斷 何月何日何地乘船何月 何日何地上陸 何船長姓名印			
---------------------------------------	--	--	--

休暇免許證ハ隊附ノ者ニ與フル書式ヲ示スモノトス故ニ隊外ノ者ニ在テモ亦之ニ準シ調製付與スヘシ
 休暇免許證及ヒ宿泊證書ハ兩面ヲ用ユル爲メ共ニ厚紙ニテ製シ若シ宿泊證書紙幅足ラサルトキハ別紙ヲ以テ補綴
 スヘシ

第十七條 下士卒休暇ヲ得歸省旅行又ハ外泊スル者ハ休暇免許證及ヒ宿泊證書ヲ所持シ第二種帽衣袴及ヒ脚絆ヲ著シ
 脚絆ヲ著スルト著セザ帶草屨ニ鍔釧或ハ刀ヲ佩ヒ且外套ヲモ所持スヘシ
 第十八條 下士卒旅行中宿泊或ハ乘船スル時ハ所在ノ戸長或ハ船長ニ免許證ヲ示シ宿泊證書ニ捺印ヲ受クヘシ若シ其途
 中發病川留等ニテ滞留スル時ハ戸長ヨリ其事由書ヲ取り或ハ醫師ノ診斷書ニ戸長ノ與書證印ヲ受ケ歸著ノ上之ヲ差出
 スヘシ

第十九條 下士卒歸郷若クハ某地ニ滞留スル時ハ直ニ其地ノ戸長ニ休暇免許證ヲ示シ宿泊證書ニ捺印ヲ受ケ其宿泊證書
 ハ期日マテ戸長ニ預ケ置キ且地方ノ推定人ノ到ル間敷箇所等ヲ承知スヘシ而シテ出發ノ期ニ至レハ宿泊證書ヲ受取其
 發途ヲ證スル爲メ重ネテ之ニ戸長ノ捺印ヲ受クヘシ且歸郷中父母病死スト雖正期日ニ至レハ必ス速ニ歸著スヘシ
 第二十條 下士卒歸郷中本人病氣ニテ期日ニ出發シ難ク延期ヲ要スル時又ハ轉地療養日限内快復ニ至ラサル者延期ヲ請
 フ時ハ願書ニ陸軍醫官若クハ地方病院醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ノ與書證印ヲ受ケ所屬ノ隊或ハ所管ニ送呈スヘシ若シ
 其地方ニ陸軍醫官若クハ病院ナキ時ハ其治療ヲ受ケタル醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

○陸軍軍人休暇規則改正ニ付下士卒兵卒ニ係ル取扱方及出願手續 二十三年七月八日 陸軍省令第二十一號

今般陸軍軍人休暇規則改正セラレ候ニ付テハ下士卒兵卒ノ休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及ヒ出願ノ手續等左ノ各項ニ據ル可
 シ

- 一 陸軍下士卒兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ二週日以内ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ
 願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作リ病氣ナレハ醫師 特別市制施行地 區長以下同シノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官
 衙へ宛差出スヘシ但當務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアル可シ
- 一 前項ノ外下士ニ在テハ毎年二週日以内ノ休暇ヲ與ヘ歸郷又ハ旅行ヲ許スコトアリ又管外居住ノ下士卒兵卒ニハ轉地療
 養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以内ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延期ヲ願フトキハ本人又ハ親族ニ於
 テ願書ヲ作リ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙へ宛差出スヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除ク外休暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス
- 一 途中發病川留船待等支等ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸著ノ上差出ス
 モノトス
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許證ヲ携帶シ陸軍定制ノ服ヲ著ス

六寸

兵種隊號(所管) 官(兵卒職工)姓名	表	裏
表	<p>休暇免許證</p>	<p>一 此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與 フルノ證トス 一 休暇日數何日(往復日數何日) 一 何月何日何時何地出發何地ニ 至リ何月何日何時マテニ必ス 何地ニ歸著スヘシ</p>

職官姓名印

年月日

七百五十八

一市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長又ハ戶長ニ於テ取扱ヘシ

○陸軍軍人傷痍疾病ニ罹リ現役服役在職ニ堪ヘサル者取扱方 二十二年七月九日 陸軍省遠陸達第百十二號

陸軍軍人ニシテ傷痍疾病ニ罹リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ノ取扱手續左ノ通定ム

但明治十三年五月達シ第三十四號達隊外下士免官願云々ヲ廢ス

一陸軍軍人傷痍疾病ニ依リ准士官以上ニ在テ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキ下士以下ニ在テ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキハ軍醫長ノ審査若クハ判定シタル陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ニ依リ准士官以上ハ陸軍大臣成規ニ依リ之ヲ區處シ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官之ヲ區處ス但陸海軍將校分限令第四條第七項ノ職務ニ因リ代員ヲ必要トスル場合ノモノハ此限ニアラス

二陸軍醫官ハ前項ニ依リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサルモノト診斷シタルトキハ診斷證書ヲ製シ之ニ病床日誌ノ寫ルトキハ病歷書ヲ添ヘテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ但准士官以上ニ在テハ該書類ヲ本人ニ附與シ本人ハ自己ノ願書ニ之ヲ添ヘテ所屬長ニ出スモノトス

三陸軍醫官ノ治療ヲ受ケサル准士官以上ニシテ傷痍疾病ニ依リ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト思考スルトキハ自己ノ願書ニ主治醫ノ病況書ヲ添ヘテ所屬長ニ出スヘシ但主治醫ニ於テ病況書ヲ調製シ難キ場合ニ在テハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受ケヘシ

四陸軍醫官アラサル地ノ下士以下ニシテ傷痍疾病ニ依リ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト其所屬長ニ於テ察シタルトキハ本人ヨリ主治醫ノ病況書ヲ出サシムヘシ

五所屬長ニ於テ第二項第三項第四項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ稟申書第四項ノ所屬長ハ其現役若クハ永久添ヘテ近衛都督又ハ師團長ニ呈スヘシ而シテ近衛都督又ハ師團長ハ其書類ヲ當該軍醫長ニ下付シテ審査(判定)セシメタル後第一

項ノ取扱ヲナスヘシ但衛生部下士以下ニ係ルモノハ所屬部隊長ヨリ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ之ヲ審査(判定)シタル後醫務局長ニ稟申スルモノトス

各官廳ニ在テハ其長官諸學校ニ在テハ校(所)長(團)長(營)隊長陸地測量部砲(工)兵會議(部)長ヨリ該書類ヲ當該軍醫長ニ移シテ其審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ順序ヲ以テ陸軍大臣ニ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

陸軍省參謀本部監軍部ニ在テハ所屬長ヨリ其書類ヲ第一師團軍醫長 近衛部隊附醫官ノ製シタルモノハ近衛軍醫長 參謀本部ニ在テハ參謀總長(監軍部)ニ在テハ監軍ヘテ審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ陸軍大臣(參謀本部)ニ在テハ參謀總長(監軍部)ニ在テハ監軍ヘテ審査(判定)ヲ經タル後進呈シ又總長監軍ハ更ニ之ヲ陸軍大臣ニ移牒ス其下士以下ハ所屬長ヨリ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

軍醫長ニシテ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサル者アルトキハ近衛都督師團長ハ本人ヨリ出シタル書類ニ稟申書ヲ添ヘテ陸軍大臣ニ呈スヘシ大臣ハ醫務局長ヲシテ之ヲ審査セシム

六軍醫長ハ診斷證書ヲ病床日誌又ハ病歷書ニ照シテ審査シ適當ト認メタルトキハ之ヲ證明シ不適當ト認メタルトキハ意見書ヲ附シテ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致シ而シテ其各官ハ軍醫長ニ於テ適當ト證明シタルモノハ第五項ノ手續ヲナシ不適當ト認メタルモノハ之ヲ所屬長ニ返付シ再ヒ醫官ヲシテ診斷セシムヘシ

軍醫長ハ病況書ニ就キ其判定證書ヲ作リタルトキハ之ヲ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致スヘシ而シテ其各官ハ該判定證書ニ依リテ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ハ第五項ノ手續ヲナシ然ラサルモノハ其趣ヲ示シテ書類ヲ返付スヘシ

軍醫長ハ病況書ヲ判定スルニ方リ陸軍醫官ノ診斷ヲ必要ト認ムルトキハ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ其意見ヲ申告スヘシ而シテ其各官ハ本人ヲ陸軍醫官 在職者 所在地ニ呼出シ又ハ陸軍醫官ヲ本人所在地ニ派遣セシメテ診斷セシムヘシ

第六類 第三章 陸軍師休兵

七百五十九

七陸軍病院入院患者ノ診断證書ハ病院長參坐ノ上主任ノ醫官之ヲ調製スヘシ但病院長主任タルトキハ參坐ヲ要セス
入院セサル患者ノ診断證書ハ主任ノ醫官一名ニテ之ヲ調製スト雖モ若シ高級又ハ古參ノ醫官ト協議シタル場合ニ在テ
ハ該醫官ト調製スヘシ而シテ該高級古參ノ醫官ハ參坐ト肩書シテ職官氏名ヲ署シテ捺印スルモノトス
休職停職豫備後備又ハ退役ノ醫官之ヲ調製スルトキハ其府縣國郡市町村番地ヲ肩書シテ官氏名ヲ署シ捺印スヘシ病歴
書モ亦同シ

診断證書ヲ調製スル醫官ハ一等軍醫以上タルヘシ但其不在ノ場合ニ在テハ二三等軍醫之ヲ調製スルコトヲ得
凡病床日誌病歴書ハ診断證書ヲ審査スル爲メニ之ヲ要ス故ニ診断證書ヲ審査シタル後ハ之ヲ軍醫部ニ係ルモノハ醫務局
ニ留メ置クヘシ

九診断證書病況判定證書並病歴書書式ハ左ノ如シ
書式ハ一ノ文例ヲ示ス故ニ病況書ノ如キ
ハ原因經過療法並現症ヲ殊ニ詳記スヘシ但病況書ノ書式ハ患者
ヨリ主治醫ニ示スヘシ

診断證書書式 用紙在職醫官ニ在テハ美濃十三
行野紙其他ニ在テハ美濃白紙
准士官以上ニ在テハ未文ヲ「不堪在職
(永久服役)者」ト診断候也」ト書スヘシ

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

主任

官氏 名 印自

參坐

氏 名 印自

何年何月何日

右何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾來加療候處現今何々ノ症ヲ貽シ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ不堪現役
(永久服役)者「不堪生徒者」ト診断候也

右審査候處適當ノ診断ト認定候也

何地衛戍病院長官 氏 名 印自

第何師團軍醫長 氏 名 印職

病況判定證書書式 用紙美濃十三行野紙
准士官以上ニ在テハ「不堪現役」ノ字ヲ「不堪在職(永久服役)」ト
書シ又「現役」ニ堪ユヘキ」ノ字ヲ「在職」ニ堪ユヘキ」ト書スヘシ

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右別紙主治醫某ノ病況書ヲ審査候處何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)現今何々ノ症ヲ貽シ何々ノ用ヲ廢スル(妨
クル)ニ由リ不堪現役(永久服役)(現今何々ノ症狀アルモ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ至ラサルニ依リ現役ニ堪ユヘ
キ)者ト判定候也

第何師團軍醫長 氏 名 印職

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等軍曹 氏 名

病歴書書式 用紙美濃野紙
或ハ半紙野紙

病名 何々
原因 何々
經過 何々
療法 何々
現症 何々
右ノ通ニ候也

第六類 第三章 陸軍歸休兵

何年何月何日

七百六十二

職 官氏 名印

病況書式 用紙美濃野紙又ハ美濃白紙但外國ニ在テ主治醫外國人ナ
ルトキハ適宜ノ洋紙ニ病名ヲ記シテ其原因經過療法現症
ヲ詳記セシムレハ此書式ニ據ラサルモ妨ケナシ

何地大隊區副官陸軍何兵大尉 氏 名

稟賦強健者テ重病ニ罹リシコトナシ唯何年頃ヨリ春秋ノ際膝ノ諸關節ニ疼痛腫起ヲ發スルコトアリシモ毎二三週日
ニシテ消散セリト然ルニ何年何月何日何地方旅行ノ際驟雨ニ遇ヒ全身大ニ冷濕ヲ被リ同月何日ニ至リ全身暈和四肢
倦怠頭痛ヲ覺ヘ次テ惡寒戰慄ヲ發セリ同日午後之ヲ診スルニ體温三十九度脈搏百至舌上白苔ヲ被リ煩渴消スヘカラ
ス諸關節殊ニ右膝關節ノ腫起疼痛最モ甚シク爲ニ起立歩行スル能ハス尿ハ暗赤色ニシテ靜定スレハ瓦紅石ノ沈渣ヲ生
シ大便ハ秘結セリ依テ關節急性發熱發熱麻質斯ト診定シ直ニ撒里矢爾酸那篤留母何瓦爾謨ヲ内服セシメ安靜温保ヲ命セ
シニ一週日ヲ經テ諸關節ノ腫痛ハ大ニ緩解セシモ特リ膝關節ハ諸症依然トシテ退カス體温猶三十八度五六ノ間ニ留マ
ルヲ以テ患部ニ氷卷法及石炭酸水卷法ヲ行ヒ撒里矢爾酸那篤留母何瓦爾謨ヲ一日間ニ分服セシメ之ヲ持長スルコトニ
週日ニシテ炎症大ニ消退シ體温何度ニ降ル然ルニ何月何日上國ノ際誤テ腹中ニ右膝ヲ打撞シ爲メニ同關節ノ炎症再ヒ
増劇シ體温四十度脈搏百二十至患部ノ腫痛甚シク夜間呻吟ヲ得ス依テ解熱消炎ノ方ヲ處セシカ何月何日ニ至リ患
部ニ波動ヲ觸知ス因テ探膿針ニテ一分ノ液ヲ採リテ檢スルニ果シテ膿汁ナリ故ニ關節急性化膿炎ニ轉シタルモノト診
定シ防腐法ヲ嚴守シ切開シテ膿ヲ泄シ石炭酸水ニテ洗滌シ排膿管ヲ挿入シテ防腐綿帶ヲ施シ兼テ持續展伸法ヲ行ヒシ
カ爾後疼痛漸ク去リ體温亦下降シ食機再ヒ振フト雖モ尚小膝關節ノ強剛ヲ遺スヲ以テ按摩法及他動的運動ヲ試行セン
カ遂ニ輕度ノ彎曲ヲ遺シ且削瘦シ爲メニ歩行スルコト能ハス依テ該彎曲ハ全ク治癒ニ至ラサルモノ(急要治癒スルニ
至ラサルモ猶何々ノ療法ヲ施セハ或ハ治癒ニ至ルヘク)ト診定候也

何年何月何日

何府(縣)何國何郡(市)何町(村)番地
主治 醫氏 名印

相談醫アルトキハ
同

相談 醫氏 名印

十 診斷證書ヲ製シタル主任ノ醫官ルモノハ軍醫長(ハ下士以下ノ患者ニシテ此手續ニ據リ醫師ヲ命セラル、ニ際シ歩行
若クハ獨行シ難キモノト認メタルトキハ左ノ證書三行野紙ヲ製シテ患者ノ所屬長ニ出ヌヘシ
但當時主任醫官不在ノトキハ他ノ醫官之ヲ調製スルモノトス

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

何年何月何日

職 官氏 名印

右ハ診斷證書(病況判定證書)ノ症狀ニ依リ歩行難相成(獨行難相成ニ付附添幾人ヲ要スル)者ニ候也
十一 第二項第三項ノ願證書式左ノ如シ
願書 用紙半紙野紙又ハ白紙但在外國ニ限
リ適宜ノ洋紙ヲ用ユルモ妨ケナシ

某 儀

何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾來加療ノ處別紙陸軍醫官診斷證書(主治醫病況書)ノ通現今何々ノ症ヲ驗シ何
々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ難堪在職(永久服役)ト思考候間御詮議ノ上本職被差免度(退役被仰付度)此段奉願候也
何年何月何日

職 官 氏 名 印

陸軍大臣爵氏名殿

第六類 第三章 陸軍歸休兵

七百六十三

第四章 陸軍召集 豫備後備軍

○陸軍召集條例

十九年十月九日
陸軍省令甲第三十九號

陸軍召集條例別冊ノ通定△

但施行期日ハ追テ達スヘシ

(別冊)

陸軍召集條例目次

- 第一章 總則
- 第二章 充員召集
- 第三章 後備軍召集
- 第四章 近衛充員召集
- 第五章 近衛後備軍召集
- 第六章 演習召集
- 第七章 點呼召集
- 第八章 召集準備

陸軍召集條例

第一章 總則

第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役後備軍艦員兵員ヲ召集ス

第六類 第四章 陸軍召集

ルノ手續ヲ示スモノナリ

七百六十六

第二條 凡ソ召集ハ之ヲ別チテ左ノ六種トス

一 充員召集

二 後備軍召集

三 近衛充員召集

四 近衛後備軍召集

五 演習召集

六 點呼召集

第三條 充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第四條 充員召集ヲ別チテ二種トス戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノヲ第一充員召集トシ戰時若クハ事變ニ際スルモ其方面未タ戰爭ヲ期セス單ニ警戒ニ止マリ又ハ臨機分遣駐屯等ノ爲メ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成セサルモノヲ第二充員召集トス

第五條 凡ソ充員召集ニ當リ步兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ各隊所在地ニ其他ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ鎮臺下大阪鎮臺ニ限リ工兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ本隊所在地ニ召集スルモノトス然レトモ左ニ掲クルモノハ本營各部及ヒ各隊所在地ニ召集スヘシ

一 本營各部ノ行李及ヒ縱列等ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員

二 各隊ノ行李ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員

三 本營各部及ヒ各隊ニ要スル歸休兵並ニ豫備役ノ看護卒及ヒ諸職工

第六條 後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ後備軍驅員兵員ヲ召集ス但驅員ノ召集ハ兵員ノ召集ニ先タツモノトス

第七條 凡ソ後備軍召集ニ當リ步兵科ノ後備軍驅員兵員ハ鎮臺下若クハ營所所在地ニ其他ノ後備軍驅員兵員ハ總テ鎮臺下ニ召集スルモノトス然レトモ輜重兵科ノ後備軍驅員兵員ハ時宜ニ由リ營所所在地又ハ其他ノ地ニ召集スルコトアルヘシ

第八條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第九條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノトス

第十條 凡ソ近衛充員召集ニ當リ近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ總テ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルモノトス但一旦軍管內近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

第十一條 東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ一部ノ近衛充員ヲ行フトキハ諸隊本屬ノ如何ヲ問ハス該地最寄軍管ヨリ召集シテ之ニ充ツルモノトス但本條一部ノ充員ヲ行フトキハ補充

充隊ヲ他ノ地ニ於テ編成スルコトアルヘシ

第十二條 近衛後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ近衛充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ近衛後備軍驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第十三條 凡ソ近衛後備軍召集ニ當リ近衛後備軍驅員兵員ハ總テ東京ニ召集スルモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京ニ引率セシム

第十四條 演習召集ハ臨時若クハ定時ニ於テ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第十五條 臨時演習召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ行フヘキ充員召集又ハ後備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ豫メ時期ヲ定メス之ヲ行ヒ定時演習召集ハ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第十六條 臨時演習召集ハ第二章第三章第四章及ヒ第五章ヲ適用スルモノトス

第十七條 定時演習召集ハ之ヲ別チテ豫備役驅員兵員演習召集後備軍演習召集ノ二種トス

第十八條 豫備役驅員兵員定時演習召集ハ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但豫備役兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第十九條 近衛豫備役驅員兵員定時演習召集ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシ

規四八

近衛兵員ハ時宜ニ由リ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フコトアルヘシ然ルトキハ其召集法歩砲兵ニ在テハ各隊充足要員ノ九分一騎工兵ニ在テハ同六分一ノ比ヲ以テ之ヲ召集スヘシ其他ノ扱ハ鎮臺兵員ト異ナルコトナシ但鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フトキハ近衛豫備役驅員ハ召集セサルモノトス

第二十條 後備軍定時演習召集ハ後備軍驅員兵員ヲ召集シ聯隊若クハ大隊常備軍戰時定員ニ編成シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第二十一條 近衛後備軍定時演習召集ハ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺後備軍ト合シ之ヲ行フモノトス其方法ハ第十九條第二項本文ノ例ニ準ス

第二十二條 點呼召集ハ近衛鎮臺ノ豫備役後備役兵員實查ノ爲メ時期ヲ定メ之ヲ召集スルモノトス

第二十三條 點呼召集ハ郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡回シ兵員ノ概ネ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十四條 凡ソ召集ハ定時演習及ヒ點呼召集ヲ除クノ外發令後決シテ訓示ヲ仰クヘカラス故ニ陸軍諸官廳ハ勿論地方廳ニ於テ豫メ諸官ノ擔任スヘキ細務ヲ規定シ置クヘシ

第二章 充員召集

一 第一充員召集

第六類 第四章 陸軍召集

第二十五條 鎮臺司令官ハ第一充員召集ノ令アルトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官
衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長 憲兵分遣隊ニ在テハ分遣隊長以
下憲兵本部長トアルモノ皆同シ
北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監及ヒ大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長檢事ノ者
ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官本條ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第一充員召集ノ令ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官
ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第二十七條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ豫備役驅員ノ召集令狀 第一中ニ
年月日ヲ記シ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ郡區長ニ送付スヘシ

第二十八條 憲兵本部長ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ憲兵ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ
但憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ之ヲ擔任シ憲兵部ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ憲兵
部ノ職務ヲ補助スヘキモノトス

一 郡區駐在所郡區役所若クハ戶長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ者ノ人名ヲ承知シ各自
ノ家ニ到リ遲滯ナク發程セシヤ否ヲ調査シ若シ故ナク猶豫スルモノアルトキハ速
ニ發途ヲ督促スヘシ

二 召集ニ應スヘキ驅員兵員通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎ヲ定メ晝
間ハ標旗 第二夜間ハ標燈 第二ヲ掲ケシムヘシ

三 河川港灣停車場等ノ要地ニハ出張シテ其通行ヲ容易ナラシムヘシ

四 其筋ノ通知ニ從ヒ失踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之ヲ召集地
ニ引致シ若クハ遞送スヘシ

第二十九條 警視總監ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府縣
知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

第三十條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ戶長ニ達シ併セテ驅
員兵員ノ召集旅費ヲ下付シ又第二十七條ノ郡區駐在官ヨリ送付スル豫備役驅員ノ召集令
狀ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自ニ配達スヘシ但本條ノ旅費ハ召集發令ノ際直ニ郡區署ノ
金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ヨリ郡區役所ニ送付スルヲ以テ領收證ト
引換現金ヲ受領スヘシ

第三十一條 戶長ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員ノ召集令狀中ニ
年月日ヲ記シ豫定ノ脚夫ヲ以テ各自ニ配達スヘシ

第三十二條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以内ニ戶
長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里 十里ハ最下限ヲ示ス以下
十里以上アルモノ皆同シヲ以テ旅行シ又汽
車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラズ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又
ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第三十三條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後
速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員票 第三ヲ受領スヘシ

第三十四條 府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後充員名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ
第三十五條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

第三十六條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付スヘシ

第三十七條 豫備役驅員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ申告スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ聯隊長ニ申告スヘシ

第三十八條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帳ヲ點檢シ歸休兵ハ直ニ本隊ニ歸ラシメ其他ノ兵員ハ充足要員票ニ照シ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第三十九條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ武庫主管及ヒ各隊ヨリ受領シ置クモノトス

第四十條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時

名簿ヲ取經メ之ヲ其所屬ノ本營各部及ヒ各隊ニ送付スヘシ

第四十一條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體檢査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但本條ノ兵役ニ堪ヘサル者ハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ヨリ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第四十二條 召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官陸軍醫官不在ノ地ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ分營所在地ニ參着スヘキモノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十三條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部憲兵部ノ設ケナキ地ハ最寄警察署若クハ巡査派出所以下憲兵部トアルモノ管同シノ證認ヲ受ケ戶長ノ奥書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第四十四條 召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十二條ノ手續ニ據リ准士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備

軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十五條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十三條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十六條 召集ノ期ニ後ル、者アルトキハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ハ其事實ヲ取糺シ懲罰ニ該ルヘキモノハ直ニ之ヲ處分シ其罰文ト共ニ本營各部若クハ各隊長ニ交付シ刑法ニ該ルヘキモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ但身分ニ依リ懲罰若クハ檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルトキ其懲罰處分ニ係ルモノハ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ府縣駐在官ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ具狀シ其檢察處分ニ係ルモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ處分スヘシ

第四十七條 第四十二條ノ準士官以上ノ届書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ差出スヘシ

第四十八條 第四十二條ノ下士ノ届書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ又第四十三條ノ兵員ノ届書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差

出スヘシ

第四十九條 第一充員召集ノ發令アルトキハ左ニ掲クル官衙公署等ニ於テ速ニ警報第四式揚示場揚示場ナキ箇所ハ公衆ノ最モ注目スヘキ場所ニ公示スヘシ

- 一 憲兵屯所同分屯所
- 一 警察署同分署巡查派出所
- 一 郡區役所
- 一 戶長役場

第五十條 第一充員召集竣ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ殘金アレハ金庫國庫場又ハ現金支拂所ニ返付シ其受領證書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ鎮臺監督部ニ送付スヘシ金取扱所或ハ同出帳

第五十一條 第一充員ノ爲メ召集シタル歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概ネ第六章演習濟解散ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

二 第二充員召集

第五十二條 第二充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十四條ニ至ル諸條及ヒ第三十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條此諸條中補充隊ニ係ル事項ヲ除クヲ適用スヘシ

第三章 後備軍召集

第五十三條 後備軍兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以内ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里詰ヲ以テ旅行シ又汽車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ

拘ハラヌ之ニ依リ速ニ召集地ニ參著シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ
第五十四條 府縣駐在官ハ後備役兵召集ノ發令後召集名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ
第五十五條 後備各隊長ハ後備役兵召集ノ發令後武庫主管及ヒ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ヨリ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第五十六條 後備役兵員既ニ召集地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢セシメ其兵員ヲ各部各隊ニ交付スヘシ

第五十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス

第五十八條 召集ニ應スヘキ後備軍員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實事ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第五十九條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第六十條 召集ニ應スヘキ後備軍員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十八條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十一條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十二條 後備軍召集ノキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第三十七條第四十條第四十一條^{補充隊ニ係ル}及ヒ第四十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第四章 近衛充員召集

第六十三條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參著シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十四條 近衛充員召集ノ發令アルトキハ近衛ニ於テハ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ引率ノ爲メ土官下士若干名ヲ各軍管近衛兵集合地ニ出張セシムヘシ但時宜ニ由リ近衛豫備役驅員ヲシテ引率セシムルコトアルヘシ

近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル驅員兵員ノ旅費金ハ近衛ニ於テ出張ノ

士官下士若クハ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ニ交付スヘシ

第六十五條 近衛豫備役艦員既ニ近衛兵集合地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ點檢シ然ル後東京若クハ臨時指定ノ地ニ向ケ發程セシメ戰時名簿ハ之ヲ近衛副官臨時指定ノ地ニ在テハ出張ノ近衛副官ニ送附スヘシ

第六十六條 近衛歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ近衛兵集合地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後戰時名簿ト共ニ之ヲ出張ノ近衛士官又ハ下士若クハ引率ノ近衛豫備役艦員ニ交付スヘシ

第六十七條 近衛副官ハ近衛充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員票ヲ受領スヘシ

第六十八條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ速ニ之ヲ補充隊ニ移スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキハ先ツ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第六十九條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ之ヲ該地ニ輸送シ其手續ヲ爲スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキ其補充隊ニ交付スヘキ武器被服等ハ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十條 近衛歸休兵並ニ豫備役艦員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ參著スルトキハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ艦員ハ其人名ヲ都督若クハ部隊ヲ

統轄スル長官ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ充足要員票ニ照ラシ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ殘餘ノ兵員アルトキハ出張ノ近衛副官部官員其旨ヲ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告スヘシ

第七十一條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ私服ハ出張ノ近衛副官部官員ニ交付スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ近衛武庫主管及ヒ近衛各隊ヨリ受領シ置クモノトス

第七十二條 近衛副官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時名簿ヲ取纏メ之ヲ其所屬ノ本營各部及ヒ各隊ニ送付スヘシ

第七十三條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體検査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ハ之ニ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ本條ノ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ先ツ出張ノ近衛副官部官員ニ交付シ同官員ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十四條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役艦員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本

人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第七十五條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第七十六條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十四條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十七條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十五條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十八條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ當ル者既ニ近衛兵集合地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ例ニ準シ取扱フヘシ但本條ノ場合ニ在

テハ兵員ト雖トモ單行セシムルヲ得

第七十九條 召集ノ期ニ後ルノ者アルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第四十六條ノ例ニ準シ之ヲ處分スヘシ但懲罰處分ノ者ハ其罰文ヲ近衛副官ニ送付スヘシ

第八十條 第七十四條ノ準士官以上ノ届書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ近衛副官ニ送付シ同官ハ之ヲ都督ニ差出スヘシ

第八十一條 第七十四條ノ下士ノ届書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヲ經テ近衛副官ニ送付シ又第七十五條兵員ノ届書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ但兵員不參ノ人員ハ鎮臺營所後備軍司令官ヨリ近衛副官ニ通知スヘシ

第八十二條 近衛充員召集竣ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ殘金アレハ金庫圖出帳場又ハ現金仕辨所ニ返付シ其受領證書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ近衛監督部ニ送付スヘシ

第八十三條 近衛充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條及ヒ第五十一條ヲ適用スヘシ

第五章 近衛後備軍召集

第八十四條 近衛後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參著シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘ

第八十五條 近衛後備各隊長ハ近衛後備役兵召集ノ發令後近衛武庫主官及ヒ同副官部ヨリ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第八十六條 近衛後備軍驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京ニ參著スルトキハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ各部各隊ニ交付スヘシ

第八十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ近衛副官部ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ近衛武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス

第八十八條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ准士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第八十九條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第九十條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八八條ノ手續ニ據リ准士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十一條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參著ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十二條 近衛後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條第五十一條第六十四條ヨリ第六十六條ニ至ル諸條第七十二條第七十三條補充隊ニ係ル事項ヲ除ク及ヒ第七十八條ヨリ第八十二條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第六章 演習召集

一 豫備役驅員兵員演習召集

第九十三條 鎮臺司令官ハ演習召集ヲ行フトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官其取扱ヲ爲スヘシ
演習召集旅費ハ鎮臺監督部ヨリ地方廳ニ送付スヘシ

第九十四條 近衛豫備役驅員兵員演習召集ヲ行フトキハ近衛都督ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ通

牒シ同官ハ第九十三條ノ例ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第九十五條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第九十三條第九十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第九十六條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ速ニ召集スヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ノ演習令狀第五條式中ニ演習ノ日數參集ノ期日及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十七條 警視總監ハ第九十三條第九十四條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ但北海道廳長官府縣知事ハ本條ノ達ト共ニ召集旅費ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十八條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ之ヲ戶長ニ達シ併セテ驅員兵員ノ召集旅費並ニ兵員ノ令狀ヲ送付シ又驅員ノ令狀ハ之ヲ各自ニ配達スヘシ

第九十九條 戶長ハ演習召集ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵豫備役兵員ノ演習令狀ヲ各自ニ配達スヘシ

第一百條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參著シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ但近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛兵集合地ニ參著シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第一百一條 鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ驅員兵員召集地ニ參著

前召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ノ召集人名書ヲ作り之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛副官ハ豫メ召集要員驅員ヲヲ算定シ其人員ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知シ同官ヨリ其人名書ノ送致ヲ受ケ驅員ノ人名書ト共ニ之ヲ近衛各部各隊長ニ交付スヘシ

第一百二條 府縣駐在官ハ驅員兵員召集地ニ參著前召集名簿ヲ携ヘ同地ニ出張スヘシ但近衛驅員兵員召集ノトキハ此限ニアラス

第一百三條 豫備役驅員既ニ召集地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ演習令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ聯隊長ニ申告スヘシ但近衛驅員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ各自ノ演習令狀ヲ點檢シ然ル後該地ニ向ケ發程セシムヘシ

第一百四條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參著スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官分營地ニ在テハ同地ノ府縣駐在官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ本隊ニ歸ラシメ豫備役兵員ハ之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ但近衛兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後近衛豫備役驅員若クハ上等兵ヲシテ該地ニ引率セシムヘシ

第百五條 召集ニ應スヘキ豫備役員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ准士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經^{分營所在地ニ參着スヘキモノ}テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經^{分營所在地ニ參着スヘキモノ}テ府縣駐在官ヲ經^{分營所在地ニ參着スヘキモノ}テ但近衛豫備役員ハ本條ニ準シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第百六條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第百七條 召集ニ應スヘキ豫備役員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ向ケ發程スヘシ若シ演習半迄ニ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ向ケ發程スヘシ若シ

第百八條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ向ケ發程スヘシ若シ演習半迄ニ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地^{近衛豫備役員ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地}ニ向ケ發程スヘシ若シ

第百九條 演習ノ爲メ召集ニ應シタル者ノ旅費ハ地方廳ニ於テ明細決算帳ヲ製シ府縣駐在官ニ移シ同官之ヲ點檢シ冊尾ニ署名押印シ然ル後更ニ地方廳ヨリ鎮臺監督部ニ送付スヘシ但近衛疆員兵員ニ係ル決算帳ハ鎮臺監督部ヨリ近衛監督部ニ送付スヘシ

第百十條 召集ノ疆員兵員解散前ニ方リ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ歸郷旅費ヲ計算スル爲メ解散地ヨリ本人郷里迄ノ里程ヲ測ヘ疆員兵員解散人名簿^{第六式}ヲ作り之ヲ鎮臺監督部ニ移シ監督部ニ於テハ司契部ニ旅費支出ノ命ヲ下シ之ヲ各隊金櫃委員ニ送付セシムヘシ但近衛疆員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官部及ヒ同監督部並ニ中央司契部ニ於テ本條ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第百十一條 各部各隊長ハ兵員解散前ニ於テ武器被服ヲ検査シ畢テ武器ヲ引揚ケ旅費ヲ給シ歸休兵ハ直ニ歸郷セシメ其他ノ兵員ハ被服ヲ私服ト交換シ解散歸郷セシムヘシ但疆員士解散ノ手續モ概テ本條ニ準シ取扱フモトス

第百十二條 各部各隊長ハ疆員兵員解散ノ後召集人名書ニ召集中ノ缺勤罰科等ヲ記シ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但近衛疆員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ヨリ其人名書ヲ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ之ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ送付スヘシ

第四百十四條 驅員兵員解散ノ際疾病其他ノ事故ニテ同時解散スルコト能ハサルモノハ其人
名書ニ私服ヲ添ヘ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付
スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊ヨリ
其人名書ニ私服ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ其人名ノミ各鎮臺後備軍司令官ニ
通知スヘシ

第四百十五條 驅員兵員解散ノトキ輕重營倉罰期中ノ者ニシテ監獄ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ罰
文ト共ニ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ交付シ又分營ニ在テハ其地ノ營倉ニ錮シ置キ
其人名ヲ同地ノ府縣駐在官ニ通知シ滿罰ノ上同官ニ交付スヘシ其禁足ニ換ヘタル者ハ本
人ヲ歸郷セシメ罰文ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ送付
スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ハ
本條ノ手續ニ準シ罰人又ハ罰文ヲ近衛副官ニ交付スヘシ

第四百十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ之ヲ監獄長ニ交付シ又禁
足ニ換ヘタル者ハ其罰文ヲ府縣駐在官ヲ經テ郡區駐在官ニ達シ同官ヨリ更ニ驅員ハ郡區
長兵員ハ戸長ヲ經テ其親族ニ達セシムヘシ又分營ニ在テ禁足ニ換ヘタル者ハ同地ノ府縣
駐在官ヨリ本人所屬ノ府縣駐在官ニ通知シ且其旨ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ申告ス
ヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官本條ノ手續
ニ準シ罰人ヲ其地ノ陸軍監獄長ニ交付シ罰文ハ各鎮臺後備軍司令官ニ送付スヘシ

第四百十七條 第四百十四條ニ當ル者ノ私服ハ鎮臺營所後備軍司令部若クハ分營所在地ノ府縣
駐在所ニ預リ置キ疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ之ヲ本人ニ付與シ且旅費ヲ監督部ニ請
求シテ本人ニ支給シ然ル後歸郷セシムヘシ但東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル近衛
驅員兵員ニシテ第四百十四條ニ當ル者ハ近衛副官部ニ於テ本條ニ準シ取扱ヒ尙ホ其歸郷セ
シメタル者ノ人名ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知スヘシ

第四百十八條 解散ノトキ驅員兵員ニシテ疾病ニ罹リ發程スルコト能ハサル者アルトキハ
全快ヲ待テ歸郷セシムヘシト雖モ陸軍醫官ノ診斷書ニ據リ車駕料ヲ給シ歸郷セシムルコ
トアルヘシ

第四百十九條 解散ヲ命セラレタル驅員兵員既ニ歸郷シタルトキハ其旨ヲ著後三日以内ニ第
百五條第百六條ノ手續ニ據リ届出ヘシ

第四百二十條 鎮臺營所後備軍司令官府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ハ各所ノ通報ニ據リ召集中
ニ係ル驅員兵員ノ缺勤罰科等ヲ其名簿ニ記注スヘシ其近衛驅員ノ缺勤罰科等ハ近衛副官
ニ於テ其名簿ニ記注スヘシ但疾病又ハ其他ノ事故ニテ召集ニ應セサル者ハ郡區駐在官ニ
於テ各自ノ手帖ニ其事由ヲ記注スヘシ

第四百二十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ演習召集人員表^{第七}
ヲ作り驅員兵員解散後十日以内ニ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省
ニ差出スヘシ但近衛驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル者ノ演習召集

人員表ハ近衛副官ニ於テ作り近衛ヨリ陸軍省ニ差出スヘシ

第二百二十二條 豫備役艦員兵員演習召集ノトキハ第二十八條^{第二項第三項ヲ除ク} 第二十六條^{補充隊ニ係ル事項ヲ除ク} 第三十九條第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第六十九條第七十條^{ニケル其補充隊ニ係ル事項ヲ除ク} 第七十一條及ヒ第七十八條ヨリ第八十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

二 後備軍演習召集

第二百二十三條 後備軍艦員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルトキハ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集ノ期日ニ其場所ニ參著シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ
第二百二十四條 召集ニ應スヘキ後備軍艦員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實事ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十五條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十六條 召集ニ應スヘキ後備軍艦員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ演習半途ニ參著シ難キトキハ速ニ其旨ヲ第百二十四條ノ手續ニ據リ届出テ命ヲ待ツヘシ但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ

演習令狀ヲ郡區長ニ返付スヘシ

第二百二十七條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ戸長ニ於テ役場ヨリ召集地迄ノ里數日數ヲ算シ演習半途ニ參著シ難キ見認ノモノハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ戸長ニ返付スヘシ
第二百二十八條 後備軍演習召集ノキハ第二十八條^{第二項第三項ヲ除ク} 第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第五十五條第五十七條第九十三條第九十五條ヨリ第九十九條ニ至ル諸條第一百一條ヨリ第一百三條^{三箇條トモ但書ヲ除ク} ニ至ル諸條第一百四條^{分注及ヒ但書ヲ除ク} 及ヒ第一百九條ヲ適用シ又其召集シタル艦員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概ネ第一百十條以下諸條ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

第七章 點呼召集

第二百二十九條 點呼召集ハ鎮臺司令官ニ於テ其期日ヲ定メ鎮臺營所後備軍司令官ニ達シ^{後備軍司令官ニハ管所司令官ヲ經テ} 又陸軍省ニ上申スヘシ
第二百三十條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ達ニ從ヒ府縣駐在官ヲ經テ之ヲ郡區駐在官ニ達シ又同時ニ北海道廳長官府縣知事ニ通知スヘシ
第二百三十一條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ點呼巡廻日割表^{第八式}ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ノ許可ヲ得テ點呼令狀^{第九式}中ニ點呼ノ日時及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第二百二十二條 郡區長ハ前條ノ令狀ヲ戸長ニ送付シ戸長ハ之ヲ各自ニ配達シ指定ノ場所ニ
參會セシムヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費日當ハ官ヨリ之ヲ給セサルモトス

第二百二十三條 點呼ヲ受クヘキ豫備役後備役兵員既ニ指定ノ場所ニ參著スルトキハ各自手
帖ニ點呼令狀ヲ添ヘ郡區駐在官ニ差出スヘシ

第二百二十四條 郡區駐在官ハ便宜ノ地ヲ撰ミ兵種ヲ區別シ一列若クハ二列ニ整列セシメ點
呼名簿ノ順序ニ各自ノ姓名ヲ呼ヒ終テ圍列ヲ作り明治十五年一月四日ノ勅諭並ニ讀法ヲ
讀示シ又服役上ノ規則等ヲ試問スヘシ

第二百二十五條 郡區駐在官ハ前條ノ點呼竣ルノ後各自ノ手帖ニ年月日點呼濟ノ印ヲ捺シ之
ヲ本人ニ返付シ然ル後解散セシムヘシ

第二百二十六條 點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ其場所ニ參會スルコト能
ハサルトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由
書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但點呼ニ參會セサ
ル者ノ手帖ハ本條ノ届書ト共ニ郡區駐在官ニ差出シ同官之ニ不參ノ事由ヲ記シ更ニ本人
又ハ親族ニ返付スヘシ

第二百二十七條 點呼全ク竣レハ郡區駐在官ハ左ノ項目ヲ別チ點呼人員表第十式ヲ作り點呼景
況書ヲ添ヘ之ヲ府縣駐在官ニ差出スヘシ

一 召集ニ應シタル者

二 寄留旅行等ノ者

三 疾病傷痍等ノ者

四 失踪逃亡若クハ犯罪等ノ者

五 徵兵令第二十條各項ニ當ル者

第二百二十八條 府縣駐在官ハ前條ノ報告ヲ一府縣ニ取纏メ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官
ニ差出シ同官ハ一師管ニ取纏メ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍
省ニ差出スヘシ

第二百二十九條 郡區駐在官ハ點呼巡廻ノ際戸長役場ニ備フル所ノ兵員名簿ヲ點檢シ又召集
ニ關スル要件ハ詳細之ヲ戸長ニ示シ置クヘシ

第八章 召集準備

第二百四十條 平戰兩時ノ召集ヲ容易ナラシムル爲メ準備ノ事項ヲ別チテ名簿令狀調査及ヒ
雜例ノ四種トス

一 名簿

第二百四十一條 充員召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

一 豫備役艦員充員名簿

二 歸休兵充員名簿

三 豫備役兵卒充員名簿

四 豫備役雜卒充員名簿

五 豫備役職工充員名簿

第四百二十二條 後備軍召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

一 後備軍驅員召集名簿

二 後備役兵卒召集名簿

三 後備役雜卒召集名簿

四 後備役職工召集名簿

第四百二十三條 定時演習召集ニ要スヘキ名簿ハ後備軍司令部條例ニ掲クル驅員兵員ノ名簿

ヲ用フルモノトス但近衛驅員兵員ニ在テハ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ヲ用フヘシ

第四百二十四條 豫備役驅員充員名簿第十一様式ハ各兵科各部及ヒ準士官以上ト下士トニ別チ之

ヲ調製スヘシ

第四百四十五條 歸休兵豫備役兵員充員名簿第十一様式ハ各兵種ニ區別シ種類步兵ニ在テハ上等兵銃卒
以下種類トアラ別チ之ヲ調製スヘシ

ルモノ皆同シ

第四百四十六條 後備軍驅員兵員ノ召集名簿ハ第四百四十四條第四百四十五條ノ例ニ據リ之ヲ別

チ調製スヘシ

第四百四十七條 第四百四十一條第四百四十二條ノ名簿ハ鎮臺下ニ召集スヘキモノハ鎮臺後備軍

司令部ニ營所所在地ニ召集スヘキモノハ營所後備軍司令部ニ分營所在地ニ召集スヘキモノ

ノハ同地ノ府縣駐在所ニ備置クヘシ但近衛驅員兵員ノ名簿ハ鎮臺營所後備軍司令部ニ備置クヘシ

第四百四十八條 府縣駐在所郡區駐在所郡區役所及ヒ戸長役場ニハ各其管轄内驅員兵員ノ名

簿ヲ備置クヘシ但本條ノ名簿ハ各召集地近衛驅員兵員ハ
近衛兵集合地ニ區別シ調製スヘシ

第四百四十九條 凡ソ名簿ハ各自身上ノ異動アル毎ニ必ス筆削ヲ加ヘ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第四百五十條 前諸條名簿ノ外鎮臺營所後備軍司令部並ニ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ

戰時名簿ヲ備置クヘシ

二 令狀

第五百一十一條 豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ郡區駐

在所ニ渡シ置クヘシ但近衛驅員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ヨリ郡區駐

在所ニ渡シ置ク可シ

第五百一十二條 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ

演習令狀ハ郡區駐在所ニ渡シ置キ召集令狀ハ同官ヲ經テ戸長ニ渡シ置クヘシ但近衛兵員

ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ニ於テハ本條ノ例ニ據リ郡區駐在所又ハ戸

長ニ渡シ置ク可シ

第五百一十三條 郡區駐在所ハ豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集

名簿ニ照較シ之ヲ其駐在所ニ備置クヘシ

第百五十四條 戸長ハ兵員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其役場ニ備置クヘシ但本條ノ令狀ハ各自身上ノ異動ヲ生スルトキハ書換ヲ要スルモノヲ除クノ外速ニ朱字ニテ之ヲ訂正スヘシ

三 調査

第百五十五條 近衛鎮臺各隊長ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ左ノ諸項ニ當ルモノヲ除キ充員所要人員ヲ豫算シ一月二十五日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ該所要人員ヲ豫算シ八月二十五日迄ニ之ヲ近衛都督若クハ鎮臺司令官步兵ハ旅團ニ據リ報告スヘシ

一 生兵

二 病者

三 犯罪者

四 逃亡中ノ者

五 前諸項ニ該ル者ノ外戦列ニ加フ可ラサル見認ノ者

第百五十六條 近衛都督ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ近衛各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ近衛副官ニ下付スヘシ

第百五十七條 鎮臺司令官ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ鎮臺營所後備軍司令官營所後備軍司令官ニハ營所司令官ヲ經テニ下付シ又分營ニ召集スヘキ人員ハ鎮臺又ハ營

所後備軍司令官ヨリ同地ノ府縣駐在官ニ下付スヘシ但豫備役及ヒ後備軍職員人名ハ召集スヘキ鎮臺營所及ヒ分營ニ別チ之ヲ下付スルコト本條ニ同シ

第百五十八條 鎮臺營所後備軍司令官ハ本營各部並ニ各隊所要ノ人員ニ基キ充員名簿先著ノ順序ニ從ヒ戰時定員ニ充足スヘキモノト補充隊ニ充ツヘキモノトヲ明瞭ニ區別シ置キ若シ補充隊人員平時總兵ハノ定員ヨリ寡少ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備徵員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ但分營所在地ニ在テハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第百五十九條 前條ノ所要ニ充ツヘキ人員ハ別ニ規定スル所ノ豫備役兵不應徵員見込ノ計算ニ基キ豫備役兵員ノ種類毎ニ其所要人員ノ幾分ヲ加ヘ置クヘシ

第百六十條 鎮臺後備軍司令官ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役後備役兵人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ二月十三日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ該人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ九月十五日迄ニ近衛副官ニ通知スヘシ

第百六十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第百五十八條ノ事務處辨ノ後充員及ヒ後備軍所要人員豫定表第十二式ヲ作り二月十三日及ヒ九月十五日迄ニ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ初度ノ分ニ限り軍管ニ取纏メ三月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ

近衛副官ハ前項ニ準シ近衛所要人員豫定表第十二式ヲ作り初度ノ分ニ限り近衛ヨリ之ヲ陸

裏

前書ノ金員相渡候也

明治何年何月何日

戸長

△姓

名

△印

八百

表面ノ年月日ハ發令ノ際郡區駐在官又ハ戸長ニ於テ記入スヘシ○裏面召集地名在地理數旅費ハ領臺ニ於テ記入シ郡區駐在官又ハ戸長ニ渡シ置クヘシ其後異動ヲ生スルトキハ郡區駐在官ニ於テ訂正認印ヲ捺シ置クヘシ○兵員ノ令狀ニハ姓名ノ頭ニ綾番號ヲ記シ又肩書職員ノ二字ヲ省クヘシ○召集發令ノ際不認ノ者ニテ疾病快癒又ハ事故濟ノ者ハ戸長ニ於テ令狀裏面ノ欄外ニ「疾病快癒(何事故濟)何月何日發程」下記シ認印ヲ捺スヘシ

第一様式 其二

曲尺六寸

畫數赤色

召集令狀

△近衛豫備役(近衛後備軍)職員

曲尺四寸

表

召集ヲ令ス

△官(何兵何等卒)姓名

明治何年何月何日

近

△衛印

裏

△來ル何日午後何地へ參著ス可シ

△何鎮臺(營所)後備軍司令部印

△何府(縣)何郡(區)何町(村)

近衛兵 里數旅費

里

數

旅

費

△何

地

△何

十

何

里

△金

何

圓

何

拾

錢

第六類 第四章 陸軍召集

八百一

前書ノ金員相渡候也

戸長

△姓

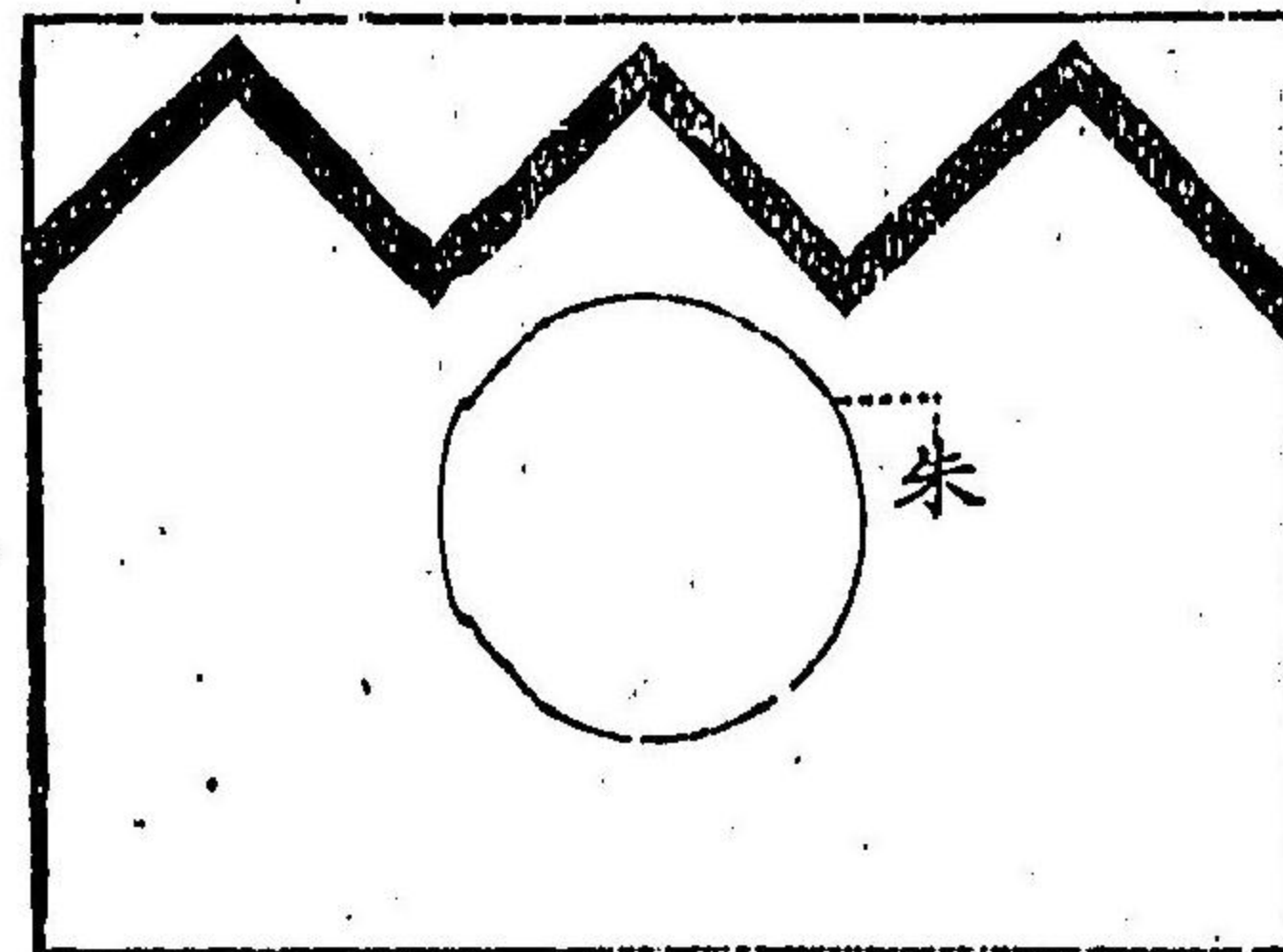
名

△印

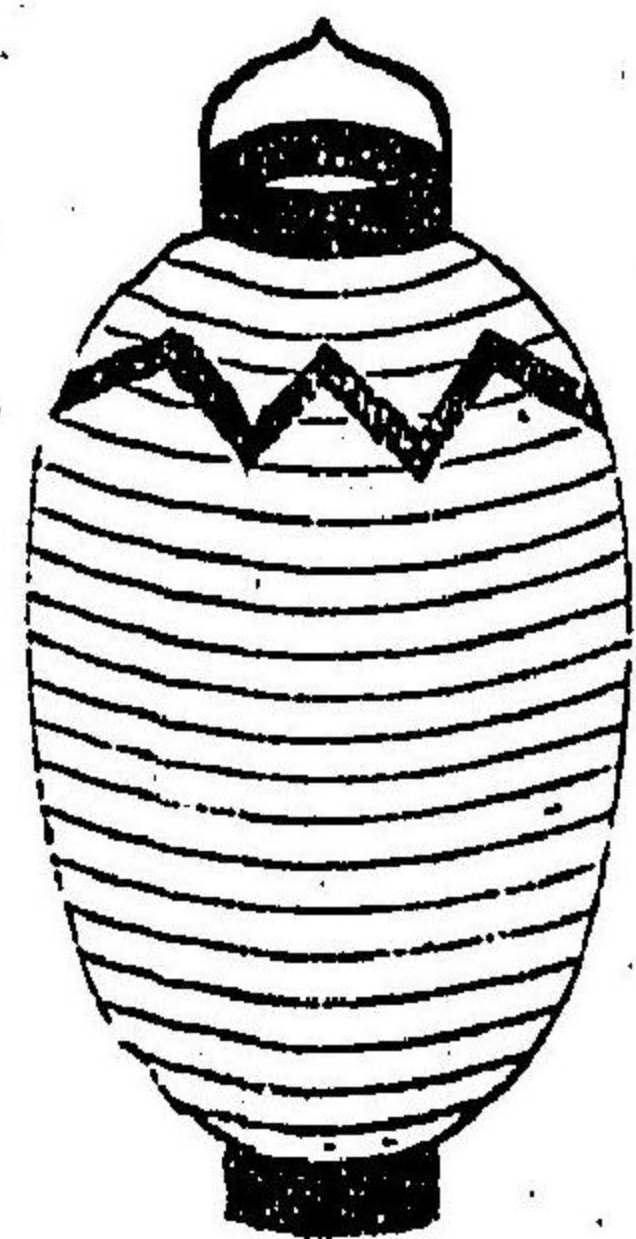
明治何年何月何日

裏面ノ参著期日ハ發令ノ際郡區駐在官又ハ戸長ニ於テ記入スヘシ其他ハ總テ其一様式ノ例ニ同シ
第二様式

旗 標



燈 標



普通ノ提灯ニ陸軍ノ徽章ヲ附著ス

普通ノ國旗ニ陸軍ノ徽章ヲ附著ス
第三様式 充足要員票

充足要員票	步兵上等兵	何	人
	同 銃 卒	何	人
	同 鋏 卒	何	人
	同 喇叭卒	何	人
明治何年何月何日	步兵第何聯隊	△	印

本票ハ歩兵聯隊ノ例ヲ示スモノニシテ本營各部及ヒ他兵種ノ聯(大)(中)(小)隊ニ在テハ之ニ準シ調製スヘシ○各隊ノ行李ニ要スル輜重輸卒其他看護卒職工等總テ其隊ニ要スルモノハ其種類ヲ別チ記載スヘシ
第四様式 警報 料紙ハ幅廣キ紙ヲ用ヒ文字ヲ大書シ公衆ヲシテ著目スルニ便ナラシムヘシ

△警報

何 鎮 臺 第 一 充 員 召 集
相 成 候 事

第六類 第四章 陸軍召集

明治何年何月何日何時何分著報
署 名

- 第二充員召集ノトキハ
何鎮臺第二充員召集相成候事
- 後備軍驅員召集ノトキハ
何鎮臺後備軍驅員召集相成候事
- 後備役兵員召集ノトキハ
何鎮臺後備役兵員召集相成候事
- 近衛充員召集ノトキハ
近衛充員召集相成候事
- 近衛後備軍驅員召集ノトキハ
近衛後備軍驅員召集相成候事
- 近衛後備役兵員召集ノトキハ
近衛後備役兵員召集相成候事

組尺四寸

第五様式 其一 曲尺六寸
畫教藍色
演習令狀
△豫備役(後備軍)驅員

表

△官(何兵何等卒)姓名
右「來ル何月何日ヨリ何週日間」演習ヲ施行ス
△何月何日午後何時何地へ參集ス可シ
明治何年何月何日
何 鎮 臺 印

裏

召集地名	本人住地	△何府(縣)何郡(區)何町(村)	
		里	收 旅
△何	△何	十	何
		里	△金 何 圓 何 拾 錢
			費

第六類 第四章 陸軍召集

前書ノ金員相渡候也

明治何年何月何日

戸長
△姓 名
△印

近衛兵ヲ鎮守兵ト合シ演習召集ヲ行フトキハ此令狀ヲ用ヒ肩書豫備役又ハ後備軍ノ上ニ近衛ノ二字ヲ加フヘシ○兵員ノ令狀ニハ姓名ノ頭ニ籤番號ヲ記シ又肩書員ノ二字ヲ省クヘシ其二様式亦同シ
第五様式 其二 曲尺六寸

畫紋赤色

演習令狀

△近衛豫備役(近衛後備軍)艦員

△官(何兵何等卒)姓名

右「來」ル何月何日ヨリ何週日間「演習」ヲ施

行ス「何」月何日何地ニ「參集」ス可シ

明治何年何月何日

近

△印

表 毎尺目十

裏

表面之通ニ付「來」ル何月何日午「前」後何時何地ニ「參著」ス可シ

△何鎮臺(營所)後備軍司令部印

本人在地位
△何府(縣)何郡(區)何町(村)

召集地名 里數 旅費
△何里 何數 何里 何圓 何十錢

前書ノ金員相渡候也

戸長

明治何年何月何日

△姓 名
△印

裏面ノ里數及ヒ旅費ハ在地位ヨリ近衛兵集令地ヲ經テ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル里數及ヒ旅費ヲ記入スヘシ
第六様式 兵員解散人名簿 用紙美濃罨紙

兵員解散人名簿

第六類 第四章 陸軍召集

○近衛豫備役(後備軍)區員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛副官部ニ於テ本表ヲ作ルヘシ然ルトキハ師管ノ區畫ヲ召集地ニ召集地ノ區畫ヲ軍管ノ區畫ニ換フヘシ○此様式ハ東京鎮臺ノ例ヲ示ス他ノ鎮臺ニ在テハ之ニ準シ調製スヘシ○表面ノ區畫ハ實際ニ就キ適宜増減スヘシ共ニ様式亦同シ
第七様式 其二 演習召集人員表

明治何年 東京鎮臺豫備(後備)役兵員演習召集人員表

師管召集地兵	種達シタル人員	召集ノ内		召集ニ應セサル人員												
		召集ニ應シタル人員	召集ニ應セサル人員													
		演習シタル者	病氣事故等ノ者													
陸	歩	騎	砲	工	輜	兵	卒	雜	卒	職	工	計	高	崎	計	

鎮臺ニ於テ近衛兵員ト鎮臺兵員ヲ合シ演習召集ヲ行ヒタルトキハ近衛兵ハ朱字ヲ以テ其人員ヲ區別スヘシ○近衛兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛副官部ニ於テ本表ヲ作ルヘシ然ルトキハ師管ノ區畫ヲ召集地ノ區畫ニ召集地ノ區畫ヲ軍管ノ區畫ニ換フヘシ

第八様式 點呼巡廻日割表

點呼巡廻日割表

考 備	總 計	第 二			
		京 東		倉 佐	
		計		計	

計	近衛充 員召集 某地	計	集召軍備後		計	集召員充二第			計	集召員充	
			佐倉	東京		高崎	佐倉	東京		高崎	佐倉
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員
										兵員	砲兵員

考備	合計	計	近衛後 集軍召 某地	計	金何拾何圓何拾錢

本表ハ第一軍管管下各郡區ノ爲メニ示スモノトス他ノ軍管管下各郡區ニ在テハ之ニ準シ調製スヘシ○歸休兵ハ兵員ノ區畫ニ朱字ニテ其人員ヲ記載スヘシ○表中某地トアルハ軍管管内近衛兵集地トス

○陸軍召集條例實施 十九年十二月二十八日
 本年當省令甲第三十九號 陸軍部内ハ七 陸軍召集條例ノ儀明治二十年四月二十日ヨリ施行ス
 第百三十六號 但豫備役驅員及ヒ後備軍驅員兵員ノ定時演習召集ハ當分ノ内施行セス

○陸軍召集條例中後備軍司令官及駐在官ノ職務執行方 二十一年五月二十六日
 明治十九年陸軍省令甲第三十九號 陸軍一般ハ七 陸軍召集條例中鎮臺營所後備軍司令官及府縣駐在官ノ職務ハ當分大隊區司令官ニ郡區駐在官ノ職務ハ監視區長ニ執行セシム

○陸軍豫備役後備軍驅員兵員並歸休兵召集旅費概則 二十一年七月十六日
 陸軍豫備役後備軍驅員兵員並歸休兵召集旅費支給概則左ノ通定ム
 陸軍省令第十五號

第一條 豫備役後備軍驅員 將校ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里詰ノ制ヲ以テ日當金壹圓五十錢ヲ支給ス但近方三里未滿ハ之ヲ給セス 三里以上六里未滿ハ日當ノ半額六里以上ハ全額ヲ給ス又十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セ

ス一里以上六里未満ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス

第二條 歸休兵並豫備役後備軍員下士及兵員ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里詰ノ割ヲ以テ日當金四十錢ヲ支給ス但近方及端里數ノ給與方ハ前條ニ同シ

第三條 召集地到着ノ際官ノ都合ニ依リ各自ニ宿泊セシムルトキハ其到着翌日ヨリ宿泊ノ數ニ應シ軍員將校ハ滞在日當金五拾錢軍員下士及兵員ハ日當金貳拾八錢ヲ支給ス但近方三里未満ノ者及三里以上六里未満ノ者並十里以上端里數六里未満ノ者ニ限リ到着當日ハ軍員兵員共旅中日當ノ半額ヲ給ス又下士以下ニシテ翌日午後二至リ入營セシムルトキハ晝食料トシテ金八錢ヲ支給ス

第四條 旅中川河雪支ノ爲メ他道ヲ迂回シ若シクハ滞在シ又ハ病氣船待等ノ爲メ滞在シタルトキハ其事由ヲ詳具セシメ其判然タルモノハ右迂路ニ係ル延仲里程ヲ通算シテ日當ヲ給シ或ハ宿泊ノ數ニ應シテ滞在日當ヲ支給ス但下士以下ニ在リテハ郡區長若クハ戸長ノ證明書病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第五條 陸路計算法ハ概テ郵便線地圖ニ依リ算出スルモノトス但島嶼居住ノ者船賃ハ時宜ニ依リ實費支給スルコトアルヘシ

第六條 此概則ハ明治二十一年十一月十日ヨリ施行シ同日ヨリ明治二十年透甲第三十二號陸軍省達ハ廢止ス

○陸軍召集條例樣式召集旅費概算表調查方

十九年十二月二十八日 陸軍省訓令甲第三號 北海道廳府縣 本年當省令甲第三十九號陸軍召集條例第十四樣式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査スヘシ 但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算スヘシ

○陸軍歸休兵豫備役後備軍員兵員寄留地ヨリ召集又ハ集合地ニ到ル準則ヲ定ム

二十年二月五日 陸軍省訓令甲第一號 北海道廳府縣 陸軍歸休兵並ニ豫備役後備軍員兵員ニシテ他ニ寄留中充員召集後備軍召集若クハ演習召集ニ際スルトキハ便宜ニ依リ寄留地ヨリ直ニ其召集地又ハ近衛兵集合地ニ到ラシムルコトヲ得其準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 陸軍歸休兵並ニ豫備役後備軍員兵員ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛兵集合地ニ到ラント欲スル者ハ召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ定メ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシムヘシ

一 令狀及ヒ旅費ハ其召集ノ命令ヲ通報スヘキ者ニ於テ受領シ之ヲ本人ニ送致セシムヘシ

一 旅費額ハ本籍ヨリ召集地又ハ近衛兵集合地迄ノ計算トス

一 近衛兵員兵員近衛兵集合地ヲ經テ寄留地ヨリ直ニ召集地ニ到ル者ニシテ近衛兵集合地迄ノ旅費ヲ給シタル者ノ同地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ到着ノ上近衛ヨリ追給スヘシ

一 前諸項ニ掲グル外實際施行ノ取扱ハ陸軍召集條例第二十四條ニ據リ各官廳ニ於テ規定シ置ク可シ

○陸軍歸休兵及豫備役後備軍員兵員臨時召集ノ細務規定ノ上届出方

二十年四月二十五日 陸軍省訓令甲第五號 北海道廳府縣(沖 繩縣ヲ除ク) 陸軍召集條例第二十四條ニ據リ陸軍歸休兵及ヒ豫備役後備軍員兵員臨時召集ノ細務規定ノ上ハ其附本ヲ添ヘ直ニ當省ヘ届出可シ爾後増減變更シタルトキ亦同シ

○陸軍召集條例第六十六條召集旅費概算表差出方

二十年六月十六日 陸軍省訓令甲第六號 北海道廳府縣(沖 繩縣ヲ除ク) 陸軍召集條例第六十六條ニ據リ地方廳ヨリ當省ヘ可差出召集旅費概算表ハ本年十一月十日調ノ分ヨリ左ノ輪形ニ準シ各郡區ヲ一表ニ調製シ正副ニ通差出スヘシ

料紙美濃紙判

從明治何年何月何日		臨時召集旅費概算表		何縣				
至	何年何月何日	郡區名	區別	召集地名	豫備後備軍員兵員	旅費金員	同上	計
第一	充				軍員			
					兵員			

召集		後備軍		計		第二充		計		第一充		軍召集		合計	
兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員

近衛後備		計		近衛充		計		召集		後備軍		計		第二充		計		軍召集		合計		
兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	兵員	艦員	

第一項 陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛集金地ニ到ランコトヲ願出ル者アルトキハ將校同相當官ハ師團長下士以下ハ大隊區司令官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第二項 前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅費受領人ヲ定メ豫メ委任狀ヲ波シ置キ其住所氏名ヲ師團長又ハ大隊區司令官ニ届出テシム

第三項 旅費ハ其受領人ヨリ令狀ハ召集令通報人ヨリ便宜ノ手續ヲ以テ本人へ送致セシムヘシ

第四項 旅費額ハ本籍地ヨリ起算シ召集地又ハ近衛兵集金地迄ノ計算トス

第五項 近衛兵集金地ヲ經テ直ニ召集地ニ至ル者ハ集金地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ近衛ヨリ追給スヘシ

○北海道徵兵令未行地ニ轉籍スル陸軍豫備後備下士兵卒 二十三年十月十五日 陸軍省令第二十九號

陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ北海道徵兵令未行地ニ轉籍スル者ハ當分勤務演習及簡閱點呼ニ召集セズ但明治十四年九月陸軍省達甲第二十三號達ヲ廢止ス

○陸軍召集條例中臨時召集旅費ニ關スル件 二十三年四月二日 陸軍省令第十一號

- 第一項 陸軍臨時召集旅費金ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官官吏ヨリ各自ニ支給ス但遠隔ノ地ハ郡市役所若クハ町村役場ニ出張シ各自ニ交付ス
- 第二項 旅費金支給ノ日時ハ第一項ニ掲グル官吏ヨリ島郡市長ニ通知シ島郡市長ハ町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス
- 第三項 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ大隊區又ハ警備隊區ヲ臨時召集旅費支給區域ニ分チ第一項ニ掲グル官吏ノ分擔ヲ定メ島郡市長ニ通知シ島郡市長ハ之ヲ管内ニ告示ス
- 第四項 條例第四十四條第四十五條第六十條第六十一條第七十六條第七十七條第九十條第九十一條ノ疾病快癒又ハ申故止ミタル者ハ第一項ニ掲グル官吏ノ所在ニ就キ旅費金ヲ受領ス可シ
- 第五項 條例第三十條第三十二條第五十條第五十三條第六十三條第八十二條第八十四條中旅費ニ關スル件ハ廢止ニ屬ス

又但第三十二條第五十三條ノ出發時間ハ旅費金額收後二十四時以內トス

第六項 條例第六十五條ノ召集旅費概算表ハ島郡市長ニ於テ五月一日十一月三十日ニ現在スヘキ人員ヲ豫算シニ通テ作リ四月一日及十一月一日迄ニ一通ハ地方廳ニ一通ハ第一項ニ掲グル官吏ニ送付ス可シ

第七項 條例第六十六條ニ依リ地方廳ヨリ陸軍省ニ送付ス可キ概算表ハ四月二十日及十一月二十日トス

○陸軍豫備兵定時演習召集旅費支給方更定 二十三年二月二十八日 陸軍省令第五號

陸軍豫備兵定時演習召集旅費金支給方ノ儀ハ陸軍召集條例第九十三條第九十四條第九十七條第九十八條及第百條揭示ノ通候處更ニ左ノ通相定明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○召集旅費金受領ノ爲メ出頭スヘキ者一日間ニ往復シ能ハサルトキ出張及通知方 二十三年三月十八日 陸軍省訓令甲第三號師團司令部府縣(沖繩縣ヲ除ク)

一 旅費金支給ノ日時ハ監視區長ヨリ島郡市長ニ通知シ島郡市長ハ町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達シ出員セシムヘシ
一 陸軍豫備兵定時演習召集旅費金ハ大隊區ニ在テハ監視區長ヨリ警備隊區ニ在テハ警備隊區副官ヨリ支給ス但監視區長駐劄所ノ在ラサル郡市ニ在テハ監視區長郡市役所ニ出張シ各自ニ交付ス
一 旅費金支給ノ日時ハ監視區長ヨリ島郡市長ニ通知シ島郡市長ハ町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達シ出員セシムヘシ

○陸軍臨時召集旅費金庫支出順序 二十三年十二月十六日 大藏省訓令第五百十號金庫出納役

陸軍臨時召集旅費金庫支出取扱順序
第一款 陸軍臨時召集旅費概算表
第一條 中央金庫ハ大藏省ヨリ毎年五月十一日ノ兩度ニ送付スル處ノ陸軍臨時召集旅費概算表ヲ得タルトキハ左ノ手續
第六類 第四章 陸軍召集 八百二十九

ヲナスヘシ

一中央金庫ニ於テハ陸軍臨時召集旅費支出概算金額書留簿書式ヲ備ヘ大蔵省ヨリ送付スル處ノ概算表ニ依リ各金庫毎ニ區分登記スヘシ

但五月ニ送付セシ概算表ハ第二次即十一月ニ送付スル概算表ノ到着スル迄ハ有効ノモノトシ第二次ノ概算表到着スレハ第一次ノ概算表及書留簿ヲ無効トス

二中央金庫ニ於テ前項概算表ヲ帳簿ヘ登記シタルトキハ該表ヲ直チニ關係ノ各本金庫及中央金庫ニ屬スル支金庫ヘ送付スルモノトス各本金庫ニ屬スル支金庫ノ

第二條 各地本金庫ニ於テハ中央金庫ヨリ第一條第二項ノ陸軍臨時召集旅費概算表ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一條第一項ニ準シ其取扱ヲシテ該概算表ハ各其支金庫ヘ送付スヘシ

第三條 各地支金庫ニ於テ第一條第二項第二條ニ據リ送付ヲ受ケタル陸軍臨時召集旅費概算表ハ第一條第一項ニ準シ其取扱ヲナスヘシ

第四條 各金庫ニ於テ第一條第二條第三條ニ依リ送付ヲ受ケタル陸軍臨時召集旅費概算表ノ金額ハ其期內ニ於ケル陸軍臨時召集旅費仕拂ノ豫令ト心得ヘシ

師團所在地外ノ本支金庫 仙臺名古屋大阪廣島熊本ノ五本金庫ニ於テハ第一條ノ陸軍臨時召集旅費概算表ノ金額ハ第八條ノ場合ニ於テ中央金庫若クハ師團所在地ノ金庫 仙臺名古屋大阪廣島熊本ノ五本金庫ヲ云フ以下皆同シヨリ爲替拂ノ電報ヲ得タルトキハ該概算表ノ金額マテテ直ニ該電報ノ差圖先キヘ仕拂フモノトス

第二款 陸軍臨時召集旅費仕拂豫算令達及現金支拂方

第五條 中央金庫ハ大蔵省ヨリ送付スル處ノ陸軍臨時召集旅費仕拂豫算令達ヲ受ケタルトキハ即刻金庫出納事務規程ニ據リ之レカ記帳ヲナシ各師團所在地ノ各本金庫ニテ支拂フモノハ該本金庫ヘ電信ヲ以テ傳達スヘシ

但本文發電後仕拂豫算令達本書ハ即刻郵便ニテ送立ツヘシ

第六條 師團所在地ノ各本金庫ニ於テハ第五條ノ仕拂豫算ノ電信令達ヲ受ケタルトキハ該電信ヲ仕拂豫算令達トシテ即

刻金庫出納事務規程ニ據リ之レヲ記帳スヘシ

第七條 中央金庫及師團所在地ノ各本金庫ニ於テ陸軍臨時召集旅費ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ中央金庫及師團所在地ノ各本金庫ニテ直ニ仕拂ヲナスモノハ即刻仕拂ヲナスヘシ

師團所在地外ノ各本金庫及各支金庫ニテ支拂ヲ要スルモノハ直ニ其本支金庫ヘ電達シテ受取人ヘ爲替拂ヲナサシムヘシ

本文爲替拂ヲナス場合ニ限リ他ノ本金庫ニ屬スル支金庫ヘ中央金庫及師團所在地ノ本金庫ヨリ直接ニ電信ヲ以テ爲替拂ヲ請求スヘシ

前項中央金庫及師團所在地ノ本金庫ヨリ師團所在地外ノ本支金庫ヘ爲替拂ヲナス爲メ發スル電信ニハ支拂ヲヘキ金額受取ヘキ出納官吏ノ氏名若クハ送金セシムヘキモノナラハ其送金スヘキコト及出納官吏ノ住所地名各地共詳細ニ電報スヘシ

但電報ニヘキ事要大凡ソ左ノ如シ

事 由	金 額	排 渡 名 宛
二十三年十二月大蔵省訓令第百五十號陸軍臨時召集旅費	何圓何拾何錢何厘	請求次第出納官吏何某(仕拂フヘシ)若送金スヘキモノナラハ「何郡區町村何番地出納官吏何某」送金スヘシトス(ヘシ)

第八條 師團所在地外ノ各本支金庫ハ第七條ノ陸軍臨時召集旅費爲替拂ノ電信ヲ受ケタルトキハ第二條及第三條ノ陸軍臨時召集旅費概算表ノ金額迄ハ即刻爲替拂ノ手續ヲ以テ現金ヲ拂出シ之レヲ指名ノ出納官吏ヘ交付シ之レカ領收證書ヲ徴スヘシ

但送金スヘキモノハ即刻別便ヲ以テ出納官吏ヘ送付スヘシ

各支金庫ニ於テ前項ノ爲替拂ヲナシタルトキハ該金額ハ各其本屬ノ金庫ヘ送金トシテ計算シ該出納官吏ノ領收證書ヲ其本屬金庫ヘ送付スヘシ

各師團所在地外ノ各本金庫ハ各其本金庫ニテ直接ニ爲替拂ニナシタルモノ及其本金庫ニ屬スル支金庫ニテ爲替拂ニナシタルモノ、合金額ヲ爲替拂請求セシ中央金庫若クハ師團所在地ノ本金庫ヘ同金トシ排出シノ計算ニ立テ出納官吏ノ領收證書ヲ爲替拂請求セシ金庫ヘ送付スヘシ

第六類 第四章 陸軍召集

但本文爲替拂ヲナシタル金額ノ計算方及出納報告等ハ總テ一般回送金ノ例ニ依リ陸軍臨時召集旅費ノ爲替拂ナル旨ヲ添記スルモノトス

第九條 各金庫ニ於テ陸軍臨時召集旅費任拂又ハ爲替拂ノ請求アルトキハ開庫時間ノ前後又ハ休暇日ト雖モ時刻ヲ違ヘヌ即刻仕拂又ハ爲替拂ヲナシ共送金スヘキモノハ之ヲ送金シ召集ニ差支ナキ様注意スヘシ

第十條 各金庫ニ於テハ陸軍臨時演習召集旅費支出ノ取扱方モ第五條ヨリ第九條迄ノ手續ニ準據スルモノト心得ヘシ

●沿革要領

明治八年十一月陸軍省達第百十二號ヲ以テ後備軍召集條例ヲ定ム○十四年九月同省達第百二十三號ヲ以テ豫備後備兵服役中北海道へ轉籍又ハ全戸寄留ノ者仙臺鐵道ノ管轄ニ屬シ復習照呼ヲ免ス○十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令ヲ改正シ官吏戸長教導職官公立學校教員府縣會議員官立府縣立醫學學校卒業ノ醫師復習照呼ノ爲メ召集ヲ止ム○十九年十月陸軍省令第百三十九號ヲ以テ陸軍召集條例ヲ定ム

○陸軍豫備後備將校服役條例 二十二年十二月二十八日 勅令第百四十三號

朕陸軍豫備後備將校服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百四十三號

陸軍豫備後備將校服役條例

第一條 陸軍豫備後備將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第二條 豫備後備將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其他康アル宴會ニ列

スル時ニ限り陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第四條 豫備後備將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及市町村長助役收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ本人所管ノ師團長ニ通報ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第五條 豫備後備將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第六條 豫備後備將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用井スシテ豫備ハ後備ニ後備ハ退役ニ入ル者トス

豫備後備滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第七條 豫備後備將校傷痕若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第八條 豫備後備將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フ可シ

第九條 豫備後備將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ所管師團長ノ許可ヲ請フ可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地ノ師團長ニ届出可シ

第十條 現役ヨリ豫備若クハ後備ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ

第十一條 豫備後備將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ但師管外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出可シ

第十二條 豫備後備將校十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十三條 豫備後備將校ニシテ市町村長、助役、收入役トナリ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ

第十四條 豫備後備將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十五條 豫備後備將校重罪輕罪^{罰金ヲ}ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ

第十六條 豫備後備將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ

師團長ニ差出ス願書ハ大隊區司令官^{豫備隊區ニ在テハ}及旅團長ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ大隊區司令官旅團長及師團長ヲ經由ス可シ

第十七條 本條例ハ豫備後備ノ將校相當官ニ適用ス

第十八條 第十條第十一條第十二條第十三條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 第十條第十二條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

○陸軍豫備後備下士兵卒服役條例^{二十二年十二月二十八日勅令第四百四十四號}

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十四號

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例

第一條 陸軍豫備後備下士兵卒ハ本籍師管ノ兵籍ニ編入シ大隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第二條 豫備後備下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者

第六類 第四章 豫備後備軍

及市町村長助役收入役ト爲ル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請
ケ本人所管ノ大隊區司令官ニ通報ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第四條 豫備後備下士兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用井シテ豫備ハ後備ニ後備ハ
國民兵役ニ入ルモノトス但下士ニ在テ後備滿期ニ至リタルトキハ其官消滅スルモノトス

第五條 豫備後備下士及下士適任證書ヲ所持スル者滿期後引續キ服役セント欲スルトキ
ハ年數ヲ定メ市町村長東京大阪ノ三市ニ在
テハ區長以下之ニ依テ及監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ願出可シ

第六條 豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱
點呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ
大隊區司令官ニ差出ス可シ

第七條 豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其地ニ於テ簡閱點呼
ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上師管歩兵ニ在
テハ旅管外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ寄留地師管又ハ旅管ニ於テ勤務演習
ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官
ニ差出ス可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者
ハ指合書受領後三日以内ニ其由ヲ寄
留地ノ監視區長ニ届出可シ

第八條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士兵卒ハ十四日以内ニ衛戍地又ハ從前ノ
在職地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ抄ナカラサル日數間ニ歸郷シ着後十四日以内ニ市
町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

衛戍地又ハ從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ十五日以上滞在若クハ寄留セント欲スルト
キハ本條ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ

市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ

第九條 豫備後備下士兵卒傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸
軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十條 豫備後備下士兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監
視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ

第十一條 豫備後備下士兵卒十四日以上ノ旅行或ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命ア
ルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキ

ハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區
ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此限ニアラス

第十二條 豫備後備下士兵卒ニシテ市町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シ
タル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ

第六類 第四章 豫備後備軍

八百四十七

監視區長ニ届出可シ

第十三條 豫備後備下士兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十四條 豫備後備下士兵卒重罪輕罪^{罰金ヲ}ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十五條 本條例中兵卒ト稱スルハ雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 第七條第三項但書第八條第十條第十一條第十二條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 第八條第十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十八條 豫備後備下士兵卒正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ會セサル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附則

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

第五章 憲兵 屯田兵

○憲兵條例 二十二年三月二十八日 勅令第四十三號

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十三號

憲兵條例

總則

第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル其戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監府縣知事^{東京府}及檢察官ノ指示ヲ受ク

第四條 憲兵ハ其職務ニ於テ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用フルコトヲ得ス

第一 暴行ヲ受クルトキ

第六類 第五章 憲兵

第二 其占守スル所ノ土地又ハ委托セラレタル場所若クハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用フルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ其抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ
第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣合議シテ憲兵ヲ一時其管轄地外ニ分派スルコトヲ得

配置編制

第七條 憲兵ハ各府縣ニ配置ス其管轄地ハ府縣ノ管轄區域ニ依ル

第八條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各府縣ニ憲兵隊ヲ置キ區分シテ各管區ニ憲兵分隊ヲ置キ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ置ク

第九條 各府縣ノ憲兵隊ハ其管轄地ヲ分畫シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス

第十條 憲兵管區ハ内務大臣憲兵司令官ニ諮問シテ之ヲ定メ巡察區ハ警視總監府縣知事東京府ヲ除ク憲兵隊長ニ協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ
憲兵司令官 憲兵大佐一名
副官 憲兵大中尉二名
軍吏 一二等軍吏一名
書記 憲兵下士五名

軍吏部下士 一二三等書記二名

第十二條 憲兵隊ノ編制左ノ如シ

本部

隊長 憲兵中少佐一名
副官 憲兵大中尉一名
軍吏 一二三等軍吏一名
下副官 憲兵曹長一名
書記 憲兵下士三名

軍吏部下士 一二三等書記二名

分隊

分隊長 憲兵大中尉一名
書記 憲兵下士一名
伍長 憲兵下士若干名
憲兵上等兵 若干名

第十三條 憲兵上等兵五名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス時宜ニ依リ一伍若クハ數伍ヲ乘馬兵トナス

第十四條 憲兵隊ハ地名ヲ冠シテ某憲兵隊ト稱ス

職務

- 第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス
- 第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ
- 第十七條 憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ
- 第十八條 憲兵隊長ハ部下ヲ董督シ其勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス
- 第十九條 憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監府縣知事東京府及其地所在ノ檢事長上府檢事及憲兵司令官ニ申報スヘシ
- 第二十條 憲兵分隊長ハ管區ノ長トナリ管內ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ管區ノ事務ヲ處理ス又管內ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互諜報スヘシ
- 第二十一條 憲兵伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ區内ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ
- 第二十二條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢察官ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラス
- 第二十三條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム
- 士官以下補充
- 第二十四條 憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ據ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ

選任ス但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其職務ニ服シタル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十五條 憲兵上等兵ハ現役豫備役及後備軍籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ選用ス

第二十六條 憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

服役

- 第二十七條 憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服スルモノトス
- 第二十八條 憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルコトヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期トシ年齡定限ニ至ルマテハ數次請願スルコトヲ得
- 第二十九條 再服役ヲ請願スル者現ニ所屬ノ部隊ニ於テスルモノトス其分隊ニ在テハ分隊長ト誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ憲兵隊長ト誓約シ憲兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト誓約ス但分隊長憲兵隊長ニ在テハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ
- 第三十條 再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ誓約ハ新ニ屬スル所ノ部隊長ニ移ルモノトス
- 第三十一條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延スコトアルヘシ
- 第三十二條 服役終ルノ後ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ後備役ニ編入シ通シテ十二箇年間服役セシム其服役十二箇年ヲ過クル者ハ之ヲ免除ス

第三十三條 憲兵下士上等兵服役中ハ自己ノ情願ヲ以テ免除セス但左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ免除ス

第一 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故出來スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第二 現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス

第三 現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第三十四條 前條第一項第二項ニ當ル者ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ憲兵科服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二箇年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム其服役十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十五條 憲兵下士上等兵其職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受ケルトキハ懲罰令第十五條ノ例ニ拘ラス官職ヲ免除スルコトヲ得

第三十六條 前條ニ依リ官職ヲ免シタル者及刑法又ハ懲罰令第十五條ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタル者ハ前兵科ニ復シ兵役トナシ憲兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其年數ニ從ヒ現役豫備役ニ服セシム其十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條 第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ス

第三十八條 憲兵ノ將校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトキハ原兵科ニ復スルモノ

トス其原兵科ナキモノハ歩兵科トス

附則

第三十九條 此條例ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

各府縣ニ配置スル憲兵隊ハ東京大阪二府ヲ除クノ外他ノ府縣ハ漸次之ヲ置キ其都度陸軍大臣之ヲ告示スヘシ

第四十條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長ノ職ニ充ルコトヲ得

第四十一條 従前ノ憲兵卒ニシテ能ク其職務ニ適スル者ハ検査ノ例ニ依ラス憲兵上等兵ニ採用スルコトヲ得

○憲兵卒概則ヲ定ム 十八年一月十六日 陸軍省遠達甲第一號府縣 憲兵卒概則左ノ通相定候條此旨相達候事 但憲兵下士卒選舉概則ハ廢止ス

憲兵卒概則

第一條 憲兵卒ハ憲兵條例第十八條ニ基ツキ近衛及ヒ鎮臺ノ常備並ニ後備服役ノ兵卒ニ箇年以上在 中志願ノ者ニシテ行 狀方正勤務勉勵且検査ニ合格ノ者ヨリ選舉ス

第二條 憲兵卒ハ其入隊ノ日ヨリ管區内ノ合宿所ニ居住セシム但憲兵隊伍長ハ大隊長ノ具申ニ依リ外宿ヲ許スヲ得 第三條 憲兵卒ハ憲兵トナリタル日ヨリ更ニ七ヶ年間現役ニ服セシメ其役終ルノ後ハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ 服役年期ノ計算ハ憲兵令第四 十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ近衛若クハ鎮臺ノ後備兵役ニ服セシム 十二條ニ依ル以下之ニ同シ 第四條 現役滿期ノ後尚ホ現役ニ服センヲ請フ者ハ陸軍ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第五條 前條再服役ハ三ヶ年ヲ以テ一期トス其再服役滿期ノ後尚ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ陸軍ノ上之ヲ許ス

第六類 第五章 憲兵

但再服役志願ノ者三ヶ年未滿ニシテ年齢定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第六條 憲兵卒ノ品行不正又ハ任務不洽等ノ者アルトキハ憲兵隊ヲ除キ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二ヶ年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム

第七條 服役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ戸主若クハ父兄等死歿シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ廢疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ管ムコト能ハサルトキハ廢議ノ上免除スルコトアル可シ但シ服役中養子分家又ハ他家相續人トナリタル者ハ本條ノ事故ヲ生スルモ免除ノ廢議ニ及ハス

第八條 前條ニ依リ免除シタルトキハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ近衛若クハ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム但常備兵役ニ服ス可キ者ノ内未タ定期ノ服役ヲ終ヘサル者ハ其年限内郷里ニ歸休セシム

第九條 第七條ノ事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親屬ニ名連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戸長並ニ郡(區)長及ヒ管轄廳ノ奧書印ニ尚ホ郡(區)及ヒ府(縣)駐在官ノ奧書印ヲ受ケ家族等ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫ヲ添ヘ憲兵本部ニ願出ツ可シ

第十條 憲兵卒ノ召募ハ陸軍卿其人員及ヒ檢査格例ヲ定メ近衛都督又ハ鎮臺司令官ニ牒告シ各軍管ニ檢査官ヲ派出シ格例ニ準據シテ檢査ヲ爲シ選舉セシムルヲ例トス故ニ憲兵本部長ハ之ヲ要スルニ當リ召募ノ事ヲ上申ス可シ但時立ニ依リ近衛ハ其又鎮臺ヲ限リ召募セシムルコトアル可シ

第十一條 近衛都督ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長ニ達シ現役在管中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム鎮臺司令官ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長及ヒ後備軍司令官ニ達シ常備並ニ後備近衛ノ歸休兵及ヒ豫備後備兵モ包含ス 服役中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム但時宜ニ依リ現役在管中ノ志願者ノミ調査セシムルモ妨ケナシ

第十二條 隊長ハ憲兵卒調査ノ達アレハ該隊中ノ志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ近衛都督若クハ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十三條 後備軍司令官ハ憲兵卒調査ノ達アレハ府縣駐在官ニ達シ豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ヲ調査セシム駐在官ハ其志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ後備軍司令官ニ呈ス可シ

第十四條 後備軍司令官ハ前條駐在官ヨリ出ス所ノ人名簿ヲ審查シ意見アレハ之ヲ取捨シ近衛鎮臺ノ豫備後備兵及ヒ歸休兵ヲ區別シ更ニ志願者ノ人名簿ヲ製シ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十五條 近衛都督鎮臺司令官ハ隊長又ハ後備軍司令官ヨリ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ出ストキハ點檢ノ上之ヲ憲兵本部ニ送付ス可シ

第十六條 憲兵本部長ハ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ受領スルトキハ之ヲ檢査官ニ付ス可シ檢査官ハ其人名簿ニ依リ檢査格例ニ準據シ檢査ヲ爲シ合格ノ者ハ其優等順序ニ從ヒ一連ノ番號ヲ附シ憲兵卒合格名簿ヲ製シ檢査ニ係ル一切ノ書類ト共ニ之ヲ憲兵本部長ニ呈ス可シ

第十七條 憲兵本部長ハ憲兵卒合格名簿ニ就キ優等ノ者ヨリ順次ニ定員ヲ撰拔シ其採用ス可キ者ノ姓名及ヒ所屬隊號ヲ記載シ所管ニ照會シテ入隊セシム(十八年甲第三十號省達ヲ以テ記載シ)ノ下(陸軍卿ニ上申シ許可ヲ得)ノ十一字ヲ削除ス

第十八條 豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ニシテ檢査ノ爲メ鎮臺或ハ營所等ニ往復スル旅費ハ總テ自費タル可シ

○軍事警察中違式ニ係ル事項取扱方 二十二年三月二十九日 陸軍省陸達第四百三十三號

第一 憲兵ハ陸軍軍人軍屬ノ行爲ヲ視察シ其違式ヲ警防ス
第二 憲兵ハ陸軍軍人軍屬ノ違式ニ涉ル行爲ヲ認ムルトキハ其願末ヲ審ニシ本人所屬ノ隊長又ハ長官ニ告知スヘシ
○憲兵下士上等兵補充細則 二十二年十二月五日 陸軍省陸達第四百七十二號
憲兵下士上等兵補充細則別冊ノ通定ム

憲兵下士上等兵補充細則

- 第一條 憲兵下士及上等兵ノ補充ハ左ノ二項ニ恰當シタル者ヲ以テス
 - 一 品行方正志操確實
 - 二 下士ハ滿二十三歳以上三十五歳迄上等兵ハ滿二十二歳以上三十歳迄
- 第二條 各兵科ヨリ憲兵下士及上等兵ヲ補充スルハ現役及ヒ豫備後備ノ下士兵卒ニシテ二箇年以上現役ニ服シ補充検査ニ合格シタル者ニ限ル
- 第三條 憲兵上等兵ヨリ下士ヲ補充スルニハ分隊長部下上等兵ニシテ第一條第一項第二項ニ恰當ノ者ヲ選抜シ技能ノ優劣ニ由リ順序ヲ定メ下士假候補名簿及ヒ品行證明書ヲ製シ三月三十一日迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ各分隊ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈ス可シ
- 憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ請ケ各隊ノ缺員ニ應ジ下士候補者ヲ二等軍曹ニ任ス下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス
- 第四條 各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵下士及ヒ上等兵ノ補充ヲ要スルトキハ憲兵司令官ヨリ所要ノ人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達ス但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所在地ノ師管内ニ於テスルヲ例トス
- 第五條 前條ノ告達アルトキハ近衛都督又ハ師團長之ヲ各隊長大隊區司令官 步兵聯隊長及大隊區司令官ニハ旅團長ヲ經テニ達シ各隊長大隊區司令官ハ志願者ヲ取調ヘ其人名書ニ品行證明書ヲ添ヘ近衛都督師團長 步兵聯隊長及大隊區司令官ハ旅團長ヲ經テニ呈シ同官ヨリ之ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ
- 各官職ニ在テハ前項ニ準シ志願者ヲ取調ヘ其長官ヨリ人名書及ヒ品行證明書ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ
- 第六條 憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領スルトキハ其書類ヲ添ヘ憲兵隊長ニ達シ該隊副官又ハ分隊長ヲ各地ニ派遣シテ補充検査ヲ行ハシム可シ
- 其検査ニ合格ノ者ハ副官又ハ分隊長其優劣ニ由リ順序ヲ定メ憲兵下士假候補名簿又ハ憲兵上等兵假候補名簿ヲ製シ檢

査書類ト共ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ一師管ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿又ハ上等兵候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈ス可シ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應ジ候補名簿ノ順序ニ從ヒ憲兵下士又ハ上等兵ニ選任ス可シ但其任命ハ近衛都督師團長其他ノ長官ヲ經由スヘシ

第七條 憲兵下士上等兵補充検査ハ體格及ヒ學科ノ二種トシ其學科ハ筆記及ヒ口述ノ二種トス但體格検査ニ合格セザル者ハ學科ノ検査ヲ行ハス

體格検査ハ検査場所在地ノ陸軍醫官ヲシテ從事セシムルヲ以テ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ヨリ醫官所屬ノ長官ニ照會ス可シ

第八條 憲兵下士上等兵補充検査格例及ヒ合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定メ近衛都督師團長各官職長官ニ通知ス可シ

第九條 憲兵下士上等兵補充検査施行期日ハ憲兵隊長ヨリ各隊長大隊區司令官及ヒ所屬長官ニ通知ス可シ

第十條 憲兵下士上等兵補充検査ノ場所ニ往復スル者ノ旅費ハ總テ自辨トス

●沿革要領

明治十四年三月第十一號達ヲ以テ憲兵條例ヲ定ム○十六年第五十二號ヲ以テ前令中改正加除ス○十八年一月陸軍省達甲第一號達ヲ以テ憲兵卒概則ヲ定ム○同年同省達甲第三十號達ヲ以テ前令中ヲ削除ス○二十二年三月勅令第四十三號ヲ以テ憲兵條例ヲ改正ス

○屯田兵條例 二十三年八月二十九日 勅令第百八十一號

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百八十一號

第六類 第五章 屯田兵

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其整備ニ充ツ
 - 第二條 屯田兵ハ兵農相兼ナルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ従事セシム
 - 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム
 - 第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役三箇年豫備役四箇年後備役十三箇年トス服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若クハ事故ニ由リ免役シタルトキハ其家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシム若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス
 - 第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス
 - 第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス
 - 第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアルヘシ
- 附則
- 第八條 此條例實施以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム
 - 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム

- 一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
 - 一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
 - 一 明治二十二年以後ニ召募シタル者ハ此條例ニ依ル
- 第九條 明治二十一年以前ニ召募シタル屯田兵ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル
- 明治二十二年及明治二十三年ニ於テ召募シタル者ノ現役年期ハ屯田兵編入ノ當日ヨリ起算シ豫備役後備役年期ハ前役滿期ノ翌日ヨリ起算ス
- 第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス
- 屯田兵召募規則 二十三年十一月十日 陸軍省令第三十號
- 明治二十二年九月陸軍省令第十三號ヲ廢シ更ニ屯田兵召募規則左ノ通定ム
- 屯田兵召募規則
- 第一條 屯田兵ハ各府縣ノ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヲ採用ス
 - 第二條 屯田兵召募検査ハ毎年召募官ヲ各召募區ニ派遣シテ之ヲ行フ
 - 第三條 屯田兵召募官ハ陸軍將校ヲ以テ之ニ充テ醫官其他若干ノ屬員ヲ附ス
 - 第四條 屯田兵召募區及召募人員ハ左表ニ掲ク
 - 第五條 屯田兵志願者ハ召募ニ應ス可キ年ノ前年十月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書戸籍明細書
 - 第六類 第五章 屯田兵

ヲ添へ府縣廳ニ差出ス可シ

第六條 府縣廳ニ於テ願書ヲ受領シタルトキハ之ヲ審査シ更ニ第四書式ノ連名簿ヲ製シ召集ノ前年十一月三十日迄ニ其地ヲ發シ屯田兵司令部ニ送付ス可シ但願書等ハ取纏メ置キ召集官到着ノトキ該官ニ交付ス可シ

第七條 屯田兵召集官ハ府縣知事ニ協議シ郡市役所又ハ町村役場等へ志願者ヲ召集シ検査ヲ行ヒ合格者中ヨリ撰拔シ所要人員ヲ採用ス可シ

第八條 屯田兵ニ採用ス可キ者ノ資格ハ左ノ如シ
年齢 滿十七年以上二十五年以下
但豫備後備ノ各兵科下士上等兵ハ滿三十年以下
身長 五尺以上

體質 強健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者
第九條 前條ニ適スル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セズ
陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵
家族ナキ者

身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復讐ヲ得サル者
禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
第十條 屯田兵身體検査ノ方法ハ陸軍志願兵身體検査規則ニ依ル

第十一條 召集検査ニ合格ノ者ハ第五書式ニ依リ家族^{成年以上ノ者}ト共ニ宣誓ヲ爲サシメ其志操ノ確實ヲ證セシム故ニ自己ノ情願ヲ以テ服役免除及移轉等ヲ請フコトヲ許サズ
第十二條 屯田兵志願者ニシテ戶主ニアラサル者ハ移任前戶主ト爲スニ非サレハ採用セズ

第十三條 屯田兵ニ採用セラレタル者ノ内豫備後備後備服役中ノ者アルトキハ其旨屯田兵司令部ヨリ本人所管大隊區司令部又ハ警備隊區司令部へ通知ス可シ

第十四條 屯田兵ニ採用セラレタル者ノ家族中陸海軍現役兵服役中ノ者アルトキハ其戶籍ノミヲ移シ本人ハ滿期ノ後移任ス可シ但移任ノ後前條ノ通知ヲ爲ス可シ

第十五條 臨時缺員ヲ補充スルトキハ服役者ノ子弟中分籍編入ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアル可シ

第十六條 前條補充ノ手續ハ本規則第八條乃至第十一條ノ例ニ依ル

第十七條 志願者検査場へ往復ノ旅費並ニ滞在日當ハ之ヲ給セス

第十八條 本規則中年齢ノ計算ハ召集年ノ四月一日ヲ以テス
附則

第十九條 明治二十四年ニ於テ召集スル屯田兵ノ召集區域及召集人員ハ同二十三年陸軍省告示第十號ニ其年齡ハ從前ノ規則ニ依ル
第一 願書式 用紙美濃紙
屯田兵服役願

屯田兵志願ニ付御検査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移任シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申仍テ別紙戶籍明細書並ニ履歷書相添此段奉願候也(戶主ニ非ル者ハ戶主連署ス可シ第二第三書式亦同シ)

産地
住所

族籍(戶主ニ非ル者ハ其子弟等)

姓名印

年號月日生
何年四月何年何箇月

第六類 第五章 屯田兵

屯田兵司令官姓名殿

右ノ通願出候ニ付取調候處相違無之候也

第二 履歷書式 用紙願書ニ同シ又書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノアルトキハ悉ク記載ス可シ

履歷書

何年何月種痘(天然痘)

族籍(戸主ニ非ル者ハ其子弟等)

姓 名

年號月日生
何年四月何年何箇月

- 一何年月日任何官(補何等出仕)(免本官)(出仕被免)(何省(府)(縣)(廳))
- 一何年月日何職被申付(何職被免)(何省(府)(縣)(廳))
- 一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)
- 一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究(商業)ノ爲メ何處留學(滞在)
- 一何年月日何々ノ科ニ依リ賞典何々下賜
- 一何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ラル

右ノ通相違無之候也

年號月日

第三 戸籍明細書式 川紙願書ニ同シ

戸籍明細書

戸主 某 年號月日生
何年四月何年何箇月

祖父 某 名

本人姓 名 名印

何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女

祖母 某 同上 名

痾疾不具等

實(養)父 某 同上 名

何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女

實(養)母 某 同上 名

何府(縣)云々

妻 某 同上 名

何男(何女)(養子女) 某 同上 名

兄(弟)(姉)(妹) 某 同上 名

右ノ通ニ候也

年號月日

第四

連名遊書式

屯田兵志願者連名簿

本人姓 名 名印

族籍(戸主ニ非ル者ハ其子弟等)

第六類 第五章 屯田兵

産地
住所

以下前二同シ

第五 誓文書式

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵役及農業ニ従事可仕
且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀任間敷尚ホ左ノ條々堅ク相守リ聊カ違背不仕候仍テ家族連署誓文如件
一 服役中年齡滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役ト爲ルトキハ子弟ノ養育ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役殘
期間兵役ニ服シ可申事
一 官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ止ムヲ得サル事故アルモ其筋ノ許可ヲ得スシテ永ク他所ニ寄寓スルコトヲ爲サス常
ニ兵村内ニ居住シ耕稼ノ業ニ勉勵可仕事
年月日

八百六十六

姓名
年號月日生

本人 何 某 印
 同人父 何 某 印
 同人母 何 某 印

屯田兵召募區及召募人員表

第	召募區		年	
	府	縣		
第	第	青森	八〇	二十五年
		秋田	八〇	二十六年
		福島	八〇	二十七年
		栃木	八〇	二十八年
				二十九年
				三十年
				三十一年
				三十二年
				三十三年
				三十四年
				三十五年
				三十六年

第六類 第五章 屯田兵

第	第										第					
	宮城	巖手	新潟	山形	埼玉	山梨	長野	群馬	千葉	茨城		東京	神奈川	岐阜	富山	愛知
第					九五									八〇		
							九五								八〇	
									九五							
										九五						
											九五				八〇	
												九五				
													九五			
														九五		
															八〇	
																八〇

八百六十七

第 三				第 四				第 五							
石川	福井	三重	奈良	京都	滋賀	鳥取	島根	大坂	和歌山	兵庫	岡山	愛媛	香川	廣島	山口
				八五								八〇			
						八五								八〇	
								八五							
			八〇							八五					
					八五									八〇	
						八五									
								八五							
			八〇							八五					八〇
					八五										
								八五							
														八〇	
			八〇												

八百六十八

第 六							第 五		
宮崎	鹿児島	熊本	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	高知	徳島
						八〇			
				八〇					
		八〇						八〇	
八〇									
					八〇				
			八〇					八〇	
	八〇								
						八〇			
				八〇				八〇	
		八〇							
八〇									
								八〇	

一 甲ノ聯合府縣ニ於テ召募人員ニ不足スルトキハ次年召募スヘキヲ聯合府縣ヨリ之ヲ補ヒ次年之ニ等シキ人員ヲ
 甲ヨリ召募シテノ召募人員ヲ減却ス
 一 明治三十七年以後本表ノ例ニ依リ召募ス
 一 沖繩縣ハ常分屯田兵ヲ召募セス

○屯田兵給與令 勅令第二百一號 二十三年九月五日
 朕屯田兵給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第六類 第五章 屯田兵

八百六十九

勅令第二百一號

屯田兵給與令

第一章 總則

第一條 屯田兵各部各隊ノ將校並ニ相當官以下ニ係ル給與ハ總テ本令ニ依ル軍屬ニ在テ特ニ本令ニ規定シタルモノ亦同シ

第二條 本令中名稱ニ依リテ區別スルモノ左ノ如シ

- 一 屯田兵各隊ト稱スルハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ノ現役豫備ノ諸隊ヲ云フ
- 二 下士兵卒ト稱スルハ屯田各兵科下士兵卒並其他ノ下士及看護手看守卒ヲ云フ

第三條 曹長ニシテ在職中准士官タルモノ及見習士官ハ特ニ給與ノ例ヲ定ムルモノ、外其給與ハ下士ニ異ナルコトナシ

第四條 屯田兵各隊ニハ被服馬匹消耗品陣營具ノ各章ニ掲クル定額ヲ交付シ該隊長ニ之カ經理ヲ委任ス

前項委任經理ニ屬スル諸品ノ廢物賣却代並損壞遺失投棄シタルモノ、補償金ハ之ヲ以テ直ニ該費ヲ補填スルコトヲ得

第二章 俸給

第五條 屯田兵各隊ノ外各章ニ於テ特ニ委任經理ニ屬スルコトヲ掲ケタルモノハ第四條ニ準ス

第六條 俸給ヲ分テ三トス

- 一 士官以上 俸給
- 二 下士兵卒 給料
- 三 見習士官 手當金

第七條 士官以上現役中俸給ハ陸軍給與令第一表ニ依ル但停職中ハ其半額ヲ給ス

第八條 士官以上在職中左ニ掲クルモノハ陸軍給與令第二表ノ職務俸甲額ヲ加給シ其他ハ乙額ヲ加給ス

屯田兵司令官、同副司令官、參謀官、屯田兵司令部副官、監督部長、軍醫長、步兵大隊長、騎砲、工兵隊長

第九條 現役下士兵卒ノ給料ハ第一表ニ依ル但屯田兵移住給與規則ニ依リ扶助米鹽菜料ヲ受クル者ニハ之ヲ給セス

第十條 見習士官手當金ハ第二表ニ依ル

第十一條 豫備役下士兵卒公務ニ服シタルトキハ現役ニ準シ給料ヲ給ス

第十二條 現役下士兵卒第九條給料ノ外左ニ掲クルモノハ外宿加俸ヲ給ス其金額ハ陸軍給與令第五表ニ依ル

- 一 他管ヨリ屯田各兵科ニ轉シタル下士
- 二 軍吏部衛生部下士及看守卒

第十三條 准士官タル曹長ニハ職務増俸ヲ給ス其金額ハ陸軍給與令第六表ニ依ル
 第十四條 一等軍吏一等藥劑官ニシテ多年勤勞成績顯著ナルモノニハ陸軍給與令第七表ノ特別俸ヲ加給スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第八條ノ職務俸ヲ給セス
 第十五條 陸軍給與令第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第三章 宅料

第十六條 宅料ハ在職士官以上及ヒ外宿加俸ヲ受クル現役下士兵卒ニ給ス其月額ハ陸軍給與令第八表ニ依ル

第十七條 陸軍給與令第二十一條第二十二條第二十三條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第四章 食料

第十八條 食料ハ左ノ區別ニ由リ給ス其金額ハ第三表ニ依ル

- 一 豫備後備ノ下士兵卒召集中若クハ公務ニ服スルトキ但軍隊旅行演習旅行及其他旅費ヲ給スルトキハ給セス
- 二 現役及豫備役下士兵卒見習士官及外宿加俸ヲ受クル者ハ除ク病室ニ入りタルトキ
- 三 士官以上及下士兵卒公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ病室ニ入りタルトキ但軍屬モ之ニ準ス

第十九條 士官以上及下士兵卒演習中露營又ハ夜中行軍スルトキ其他下士兵卒不寢番ヲ

爲ストキハ夜食料ヲ給ス其金額ハ第三表ニ依ル軍屬馬丁モ亦之ニ準ス

第二十條 下士兵卒營倉ニ處シタル者及檢察處分ニ由リ留置シタル者又ハ違警罪ニ依リ處分ヲ受ケタル者ノ食料ハ第四表ニ依ル

第二十一條 屯田兵監獄ニ入監スル者ノ糧食ハ第四表ニ依ル其糧食ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ監獄ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第五章 被服

第二十二條 被服ハ士官以上自辨トシ見習士官並ニ下士以下ハ官給トス其給與ノ區別ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 曹長ニシテ在職中准士官タル者ノ被服ハ現品及代金ヲ給ス其員數ト金額ハ陸軍給與令第十二表第十五表中步兵下副官ニ同シ
- 二 各隊下士兵卒及見習士官ノ被服ハ現品ヲ給ス其員數下士兵卒ハ第五表ニ依リ定員ニ應シ地質ト金額トヲ以テ交付シ見習士官ハ陸軍給與令第十二表中歩兵科士官候補生ニ準シ現員ニ應シ金額ヲ以テ交付シ該隊ニ經理ヲ委任ス其地質ノ定尺及金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

三 外宿加俸ヲ受クル下士兵卒ノ被服ハ現品及代金ヲ給ス其員數ト金額トハ陸軍給與令第十二表第十五表ニ依ル

第二十三條 各隊ニ於テハ被服修理料及被服手入具永續料トシテ其定額ヲ下士兵卒ノ現

員 外宿加俸ヲ受クルニ應シ之ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第六表ニ依ル
第二十四條 大隊本部、中隊、分屯隊ノ週番ニ要スル寢具及病室ノ被服ハ初度現品ヲ備付ケ爾後毎月永續料ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其員數及金額ハ第七表第八表ニ依ル
第二十五條 陸軍給與令第三十四條第四十一條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第六章 馬匹

第二十六條 騎兵及砲兵ノ馬匹ハ移住ノ初度之ヲ給ス但士官及外宿加俸ヲ受クル下士ニハ貸與ス
前項給與ノ馬匹廢斃シタルトキハ下士兵卒現役中ニ限り之ヲ換給ス

第二十七條 騎兵砲兵隊ノ下士兵卒ニハ現役中飼養料ヲ給ス其金額ハ第九表ノ乙額ニ依ル但外宿加俸ヲ受クル下士ニハ甲額ヲ給ス

第二十八條 騎兵及砲兵隊現役下士兵卒ノ馬匹ニハ裝蹄料トシテ定馬數ニ應シ定額ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第九表ニ依ル

騎兵及砲兵隊ニハ裝蹄器械ヲ初度現品ニテ備付ケ爾後裝蹄料ノ内ヲ以テ之ヲ保續セシム
第二十九條 騎兵及砲兵隊ニハ馬療器械ヲ初度現品ニテ備付ケ爾後毎月永續料トシテ第九表ノ金額ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス

第三十條 騎兵及砲兵隊現役下士兵卒ノ馬匹ニハ馬藥料トシテ定馬數ノ十分一ニ應シ定額ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第九表ニ依ル

第三十一條 陸軍給與令第四十二條第四十八條第四十九條第五十條第五十二條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第七章 消耗品及陣營具

第三十二條 各隊日常所要ノ消耗品ハ消耗品料及燬室用薪炭料ノ二種ニ分チ各定額金ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第十表第十一表ニ依ル

第三十三條 燬室用薪炭料ハ燬室器備付ノ現數及焚方期限ニ應シ之ヲ交付ス但焚方期限ハ第十一表ニ依ルト雖モ其定額以内ヲ以テ本條ノ期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第三十四條 各隊所要ノ陣營具ハ初度現品ヲ備付ケ爾後毎月永續料トシテ定額金ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第十二表ニ依ル

第八章 旅費

第三十五條 各隊本部移轉スルトキノ旅費ハ總テ赴任ニ準シ之ヲ給ス

第三十六條 工事監視並測量ノ爲メ出張ノ者並ニ大隊管轄地ヲ旅行スル該隊上長官士官及下士兵卒ノ旅費ハ陸軍大臣陸軍給與令第三十二表及本令第十三表ノ旅費定額内ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十七條 陸軍給與令第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條ハ第六類 第五章 屯田兵

本令ニ之ヲ適用ス但北海道内陸路旅行ニ限り陸軍給與令第三十二表第三十三表ノ車馬賃ハ本令第十三表ニ陸軍給與令第三十四表ノ車馬料ハ本令第十四表ニ陸軍給與令第三十五表ノ車馬料ハ本令第十五表ニ依ル

第九章 諸手當

第三十八條 野外演習又ハ行軍演習中ノ手當ハ陸軍給與令第八十八條ヲ適用ス

第三十九條 屯田兵移住給與規則ニ依リ扶助米鹽菜料ヲ受クル現役下士上等兵看護手及喇叭手タル一二等卒ニハ公務ニ服シタルトキニ限り勤務手當ヲ給ス其金額ハ現役下士兵卒給料ノ額ニ同シ

第四十條 新ニ移殖セル地ニ於テ職ヲ奉スル上長官士官見習士官及外宿加俸ヲ受クル下士兵卒ニハ移殖後一箇年間移殖地在職手當ヲ給ス其金額ハ第十六表ニ依ル

第十章 雜則

第四十一條 現役及豫備役ノ下士兵卒見習士官及外宿加俸ヲ受クル者ハ除ク死亡スルトキハ埋葬料ヲ給ス其金額ハ陸軍給與令第四十六表ニ依ル
後備役下士兵卒召集中死亡スルトキモ亦同シ

第四十二條 本令中ニ陸軍給與令ヲ適用スル條項ニ於テ營内居住ノ下士兵卒ニ係ル事項ハ外宿加俸ヲ受ケサル下士兵卒ニ營外居住ノ下士兵卒ニ係ル事項ハ外宿加俸ヲ受クル下士兵卒ニ適用ス

第四十三條 本令第六條乃至第十七條及第三十九條第四十條ハ明治二十三年十二月一日ヨリ施行ス

第四十四條 本令ニ關スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四十五條 本令ト牴觸スル命令ハ本令施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

第四十六條 本令中步兵騎兵砲兵工兵ニ係ル規定ハ明治二十四年三月三十一日迄現今ノ屯田兵隊及屯田兵將校下士兵卒ニ適用ス但兵科ニ由リ給與ノ區別アルモノハ步兵科ニ依ル

(別表第一ヨリ第十六迄ハ之ヲ畧ス)

○屯田兵土地給與規則二十三年九月五日 法律第七十九號

朕屯田兵土地給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第七十九號

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其ノ下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス

- 第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス
- 公有財産ノ管理利用竝ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス
- 第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス
- 第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス
- 第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス
- 第七條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス
- 其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル
- 第八條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其ノ滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十二年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

○屯田兵移住給與規則

二十三年五月十日
勅令第七十六號

朕屯田兵移住給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十六號

屯田兵移住給與規則

- 第一條 屯田兵移住ノトキハ支度料旅費日當駄賃トシテ左ノ金額ヲ支給ス
- 但海路竝ニ鐵道ニ據ル費用ハ官費トシ變災ノ爲メ滯留スルトキハ實費ヲ給ス
- 一 支度料
 - 金貳圓
 - 金壹圓
- 二 旅費日當
 - 十五歲以上一人分
 - 十五歲未滿一人分
 - 七歲以上一人分七歲未滿ハ此半ヲ給ス
- 三 駄賃
 - 金貳圓六拾錢
 - 金貳圓
 - 金壹圓
- 一戸一日馬二匹ノ割
- 第二條 旅費日當駄賃ノ給與方ハ左ノ各項ニ依ル
- 一 一日ノ里程ハ十里詰ヲ以テ算ス
- 第六類 第五章 屯田兵

二十里以下ノ端里數ニシテ二里未滿ハ實費三里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス

三十里以上ノ端里數ニシテ一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス

第三條 屯田兵移住シタルトキハ家宅家具夜具農具種物扶助米及鹽菜料ヲ支給ス

第四條 家具ハ現品ヲ以テ一戸ニ付左ノ如ク支給ス

一 鍋 大中小 各一箇

二 茶碗 五箇

三 椀 五箇

四 手桶 一荷

五 小桶 一組

六 擔桶 一荷

第五條 夜具ハ現品ヲ以テ人員ニ應シ左ノ如ク支給ス

一 四布三布各一枚宛 十五歲以上ノ者一人分

二 四布一枚 十五歲未滿ノ者一人分

但七歲未滿ノ者ニハ支給セズ

第六條 農具ハ現品ヲ以テ一戸ニ付左ノ如ク支給ス

一 鍬 大小 各一挺

二 唐鍬 大小 各一挺

三 砥 荒砥 中砥 各一箇

四 山刀 一挺

五 鑿 二挺

六 鑿 一挺

七 鋸 大小 各一挺

八 鎌 柴刈 草刈 各一柄

九 鋤 三十枚

十 蠶籠 二十箇

十一 麻扱函 扱板 蠶共 一箇

十二 培養桶 一箇

第七條 種物ハ現品ヲ以テ一戸ニ付左ノ如ク支給ス

一 麻種子 一斗

二 大麥 一斗

三 小麥 一斗

四 大豆 一斗

五 小豆 五升

第六類 第五章 屯田兵

六 馬鈴薯 四斗
七 蠶卵紙 四半枚

第八條 扶助米及鹽菜料ハ三箇年間人員ニ應シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

- 一 米七合五勺 十五歳以上及六十歳未満ノ者一八一日分
- 二 米五合 六十歳以上及十五歳未満七歳迄同上
- 三 米三合 七歳未満同上
- 四 金壹錢五厘 十五歳以上及六十歳未満ノ者同上
- 五 金壹錢 六十歳以上及十五歳未満同上
- 六 金七厘 七歳未満同上

第九條 夜具扶助米及鹽菜料給否ノ區別ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 婚嫁縁組出産等正當ノ理由アリテ戸籍ニ入ル者ニハ扶助米及鹽菜料ニ限り之ヲ給ス但移住前他ノ戸籍ニ入り移住後復籍シタル者ハ總テ給セズ
- 二 公務ニ服シ軍隊ノ給與ヲ受クル者ハ其日ノ扶助米及鹽菜料ヲ給セズ
- 三 家族中仕官又ハ其他ノ事故疾病或ハ一時旅行ヲ除クアリ徵募ノ際居殘リ他日移住スル者ニハ扶助米及鹽菜料ニ限り之ヲ給ス
- 四 家族中俸給恩給ヲ受クル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給セズ
- 五 附籍者ニシテ附籍主ニ從ヒ移住スル者ハ寡寡孤獨ニシテ自營ノカナク親戚ノ縁故

ニ由リ附籍セシメタル者ニ限り諸給與トモ家族ト同シク支給シ其他ノ附籍者ニハ一切之ヲ給セズ

第十條 屯田兵移著ノ時ニ限り毎中隊ニ事業場及學校ヲ給ス但修理交換等ハ之ヲ爲サズ

- 一 事業場四棟養蠶製絲器具及麻蒸場並製麻器具ヲ屬ス
- 二 學校一棟所用ノ器具ヲ屬ス

第十一條 屯田兵家族ノ者藥餌費ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 扶助年限中ノ醫藥ハ凡テ官費トシ扶助滿限ノ者ハ藥劑ノ實價ヲ徵收シ小兒七年未満ハ其半價ヲ徵收ス
- 二 扶助年限中病院ニ入リタル者ノ醫藥食料ハ凡テ官費トシ扶助米及鹽菜料ハ扣除ス扶助滿限ノ者ハ凡テ自辨トス

第十二條 屯田兵家族ノ者扶助年限中死スルトキハ左ノ割合ヲ以テ埋葬料ヲ給ス

- 一 金七圓 家族七歳以上ノ者
- 二 金三圓五十錢 同 七歳未満ノ者

●沿革要領

明治十八年五月太政官達第十八號ヲ以テ屯田兵條例ヲ定ム○同二十二年七月勅令第百二號ヲ以テ同條例ヲ改正○同二十三年八月勅令第百八十一號ヲ以テ同條例ヲ改正

第六章 海軍徵募

○海軍志願兵徵募規則 二十二年五月二十一日勅令第六十八號

朕海軍志願兵徵募規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第六十八號

海軍志願兵徵募規則

- 第一條 海軍兵役ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ服役セシム
- 第二條 志願兵ノ職名ハ左ノ如シ
- 水兵、信號兵、軍樂生、水雷夫、火夫、工夫、木工、鍛冶、看病夫、厨夫 (二十三年十二月二十七日勅令第百九十四號ヲ以テ本條中追加)
- 第三條 志願兵ニ徵募スルトキノ年齡定限ハ左ノ如シ
- 一 水兵、信號兵、火夫ハ滿十七年以上二十一年未滿(同)
 - 二 木工、鍛冶、看病夫、厨夫ハ滿十七年以上二十六年未滿
 - 三 水雷夫、工夫ハ滿十七年以上三十二年未滿
 - 四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿
- 第四條 左ニ掲クル者ハ志願兵タルコトヲ許サス
- 一 陸軍ノ豫備役後備役ニ在ル者
 - 二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者
 四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者
 五 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
 第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス
 現役ハ八箇年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

水雷夫ハ前項ニ依ラヌ十二箇年間現役ニ服セシメ豫備役ニ服セシメヌ但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム
 第六條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期懲罰逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス
 第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ若クハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアルヘシ
 第八條 豫備兵ハ戰時或ハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ但餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ召集スルコトナシ
 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ
 第九條 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ滿十二箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム其永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一日金貳錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム(同上本條ノ第二項削除)

附則
 第十三條 舊規則ニ依リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ依ル
 第十四條 舊規則ニ依リ一箇月金壹圓七十五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月以後其現役滿期マテ一日金五錢七厘ノ家族扶助金ヲ給ス
 別表(同上第二第三改正)

海軍志願兵徵募區	所管鎮守府	府	縣	名
第一	橫須賀鎮守府	北海道	東京	神奈川 新潟 埼玉 群馬 千葉 茨城
第二	吳鎮守府	福島 栃木 三重 愛知 靜岡 山梨 岐阜 長野 宮城	京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 石川 富山	愛媛 高知 岡山 廣島 山口 福井 德島 香川

○海軍志願兵徵募細則 二十二年六月二十日 海軍省令第五號

海軍志願兵徵募細則

第一條 海軍志願兵ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ徵募ス但軍樂生ハ横須賀鎮守府ニ於テ徵募シ水雷夫ハ別ニ定ムル規則ニ依リ徵募ス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正)

第二條 志願兵徵募ノ數額ハ毎年一月ニ於テ告示ス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ本條中改正)

第三條 前條ノ告示アリタルトキ地方長官ハ其年海軍志願兵徵募規則第三條ノ年齡ニ適スル者ヲシテ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島司郡市長及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り四月一日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒ス可シ

島司郡市長ハ志願人ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵徵募規則第四條ニ觸ル、者ナキヤ否ヤヲ審査ス可シ

第四條 鎮守府司令長官ハ志願人ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地方ニ配當ス可シ

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當表ヲ作り第三條第一項ノ志願人員表ト共ニ海軍省ニ送附ス可シ(二十三年二月海軍省令)

第五條 鎮守府司令長官ハ五月一日後左ノ諸官ヲ派出シ志願人ヲ検査シ採用セシム

海兵團徵募官 志願人検査採用ノ事務ヲ掌ル

軍醫官 志願人ノ身體検査ヲ掌ル

書記 徵募官ニ屬シ庶務ニ從事ス

看護手 軍醫官ニ屬シ身體検査ニ從事ス

第六條 地方長官ハ徵募官ノ巡迴ニ先クテ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシム可シ

第七條 地方長官島司郡市長ハ徵募官ノ巡迴ニ際シ屬書記ヲ派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第八條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方廳管轄地ノ廢狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ撰ミ概ネ一郡市ニ一箇所ヲ設ク可シ但志願人十名ニ滿タサル郡市ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス

志願人ノ數一地方廳管轄地ヲ通シテ十名ニ滿タサルトキハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス(二十三年軍省令第二號ヲ以テ追加ス)

第九條 徵募官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡迴日割及毎日検査ヲ行フ可キ人員ヲ定メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達ス可シ

第十條 島司郡市長ハ徵募官ノ巡迴日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引繼メ検査所ニ出頭セシム可シ

第十一條 徵募官軍醫官ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ム可シ

第十二條 志願人身許左ノ定尺ニ達シ身體完全強健精神異常ナキ者ヲ身體検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正)

- 一 水兵火夫(看病夫志願者ニ在テハ五尺二寸)
- 二 軍樂生志願者ハ齒列齊正ニシテ十五年以上ニ在テハ五尺十五寸未滿ニ在テハ四尺八寸
- 三 木工鍛冶厨夫志願者ニ在テハ五尺

第十三條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ボスモノトス

第十四條 木工鍛冶志願者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限リ採用ス其證明書ハ市町村長ヨリ巡迴ノ徵募官ニ出ス可シ

第十五條 軍樂生看病夫厨夫志願者ハ身體検査ニ合格スト雖モ讀書作文算術ノ試験ニ合格セサレハ採用セス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正)

讀書ハ平易ナル漢字交リ作文ハ通俗文算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス

第六類 第六章 海軍徵募

第二様式

八百九十二

寸五尺曲

右海軍水兵何々ハニ徵募ス

明治年月日

第何海軍志願兵徵募區
府(縣)郡(市)町(村)住

氏名

何鎮守府海兵團

印

曲尺七寸

第三様式(用紙美濃紙四ツ切)

誓約書

海軍志願兵ニ御採用ニ付テハ御規則ヲ嚴守シ誓テ海軍ニ従事可仕候也

明治年月日

氏名印

第四様式(用紙美濃紙)

本管族籍	姓名
住所	

戸主カ子 弟カ	家族ノ名	其生年 月日	家族ノ名	其生年 月日
本管族籍				
住所				
姓名				
生國生年 月日				

右之通相違無之候也

年月日

市町村長 姓名印

海軍

第六類 第六章 海軍徵募

八百九十三

癩痕

八百九十六

- 十一、心臓及ヒ血管ノ官能的若クハ器質的ノ疾病胸廓ノ畸形縮小鎖骨下扁平肺勞咳血氣管支炎呼吸短息嚔音嚔性咳嗽其他肺結核ノ諸兆
- 十二、腹部ノ腫脹若クハ膨脹非常ノ肥滿肝脾腎ノ疾病腹腸腹輪ノ弛緩痲痺尿道狹窄小便失禁或ハ尿道ノ瘻孔症
- 十三、片察若クハ兩鬚ノ下降セサル者精系靜脈怒張辜丸莖膜腫脹辜丸病
- 十四、痔瘻肛門皸裂痔疾脫肛或ハコンヂロマタ
- 十五、四肢ノ麻痺筋力收縮關節運動ノ不全動脈瘤靜脈怒張手足若クハ指趾ノ畸形醜形微性結節
- 十六、脊梁骨胸廓諸骨骨盤ノ角傷或ハ全身病ニ起因スル歪形
- 第三條 前條掲グル者ノ内輕症ナル者ニシテ氣候及ヒ職務ニ關セス少クモ十年間職務ニ堪ユルノ目的アル者ハ合格ト爲スモ妨ケナシ又體動ニ障礙ナキ理學的ノ狀況ニシテ不適合ト爲スニ至ラサル瘦體肥體體毛過冗軀幹若クハ四肢輕度ノ不同内變膝彎脚扁平足齒牙及ヒ消食器ノ異常輕症ノ精系靜脈怒張等ハ成男ニ於テ可トシ少年ニ於テハ不可トス

○海軍志願兵身體檢査格例發布前徵募セル下士卒再服役者ノ身體檢査方
 二十二年七月三日
 一號
 本年六月達第百八十五號海軍志願兵身體檢査格例發布前ニ徵募シタル下士卒再服役者ノ身體檢査ハ本人徵募ノ時ノ檢査ニ準シ行フヘシ

○海軍工夫徵募細則 二十二年七月二十四日
 海軍省令第七號

海軍工夫徵募細則左ノ通定ム

第一條 海軍工夫ハ造船部兵器部造兵廠火藥工廠水路部小野濱造船所ニ於テ補缺ヲ要スルトキ人員ヲ告示シ志願人志願手續及志願人心得ハ造船部兵器部ハ鎮守府ヲシテ廣告セシメ造兵廠火藥工廠水路部小野濱造船所ハ海軍省第一局ヲシテ廣告セシム

テ廣告セシム

- 第二條 志願人ノ身體檢査ハ其要スル部廠所ニ於テ軍醫之ヲ行ヒ其合格不合格ヲ定ム
- 第三條 志願人身幹五尺以上身體健全強健精神異常ナキ者ヲ身體檢査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス (二十二年九月省令第十號ヲ以テ) (二十一年九月省令第十號ヲ改正ス)
- 第四條 志願人身體檢査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス
- 第五條 志願人身體檢査ニ合格シタルトキハ之ヲ備職工トシ十五日以上三十日以内其業ヲ試ミ工夫ト爲スヘキ目途アル者ハ更ニ六箇月間通勤セシメ工夫ト爲スヘキ目途ナキ者ハ直ニ解備ス
- 第六條 志願人備職工タル間ハ其服業日數ニ應ジ相當ノ日給ヲ給ス
- 第七條 志願人六箇月間備職工タリシ後所要ノ人員ト服業ノ巧拙勤怠ニ依リ順次ニ工夫ヲ命シ契約ヲ爲サシム
- 第八條 志願人工夫ヲ命セラレタルトキハ本籍市町村長 東京市大阪市京都市 證印アル戸籍明細書ヲ各部廠所ニ出スヘシ
- 第九條 補缺ヲ要スル人員最少ナルトキハ第一條ノ手續ニ依ラス鎮守府又ハ海軍省第一局ノ指示ニ依リ部廠所ニ於テ臨時其備職工中ヨリ適當ノ者ヲ撰ミ身體檢査ノ上工夫ニ採用スルトヲ得此場合ニ於テハ第五條ノ試業及通勤ヲ要セス (二十二年九月二十一日海軍省令第十號ヲ以テ本條ヲ追加)

○海軍水雷夫徵募細則 二十三年三月二十七日
 海軍省令第五號

海軍水雷夫徵募細則

- 第一條 水雷夫ハ水雷隊ヲ置ク地ノ附近ノ地ニ於テ徵募スルモノトス
- 第二條 水雷夫ノ徵募ヲ要スルトキハ豫メ其人員徵募區域及期限ヲ告示シ志願手續ハ鎮守府ヲシテ地方廳ニ通知セシム
- 第三條 前條ノ通知アリタルトキ地方長官ハ郡區長ヲシテ志願人ヲ調査セシメ志願人員表ヲ作り水雷隊司令ニ通知セシム可シ

第六類 第六章 海軍徵募

八百九十七

- 第四條 鎮守府司令長官ハ水雷隊司令ヲシテ徵募事務ヲ管セシメ分隊長軍醫看護手主帳ヲ派出シ志願人ヲ検査シ採用セシム
- 第五條 徵募ヲ要スル人員寡少ナルトキハ分隊長以下ヲ派出セス水雷隊ニ於テ検査ヲ施行ス
- 第六條 志願人ハ左項ノ一二適合ノ者タル可シ
 - 一、海軍豫備役後備役ニ在ル者
 - 二、舟夫又ハ一箇年以上舟夫ノ業ニ從事シタル者
 - 三、漁夫又ハ一箇年以上漁夫ノ業ニ從事シタル者
- 第七條 志願人身幹五尺ニ達シ身體完全強健精神異狀ナキ者ヲ合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス
- 第八條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス
- 第九條 検査合格者ニハ水雷隊司令ヨリ郡區長ヲ經テ採用證書ヲ附與シ誓約セシム
- 第十條 合格者ノ數採用スヘキ人員ニ超過スルトキハ先ツ豫備兵又ハ後備役兵ノ合格者ヲ採用シ其他ニ在テハ甲種合格者又ハ乙種合格者中更ニ體格ノ等位ヲ細別シ順次ニ採用スルモノトス
- 第十一條 志願人採用セラレタルトキハ本籍町村長ノ印印アル戸籍明細書ヲ水雷隊ニ出ス可シ
- 第十二條 水雷隊司令ハ採用シタル者ノ履歷ヲ履歷表ニ記入シ其人各戸籍明細書其他履歷上必要ノ件ハ之ヲ本管海兵團ニ送附ス可シ
- 第十三條 水雷隊入營期限ハ検査ヲ了リタル後水雷隊司令ヨリ郡區長ニ通知ス可シ
- 第十四條 入營期限ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入營延期ヲ願フ者ハ水雷隊司令ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス可シ
- 第十五條 徵募事務終ルトキハ水雷隊司令ハ検査表ヲ作り軍港司令官若クハ要港司令官 要港司令官ナキトキハ之ヲ經由シ鎮守府司令長官ニ出ス可シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍省ニ送附ス可シ
- 第十六條 水雷隊各自居住ノ地ヨリ入營マテノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但検査所往復ノ費用並検査ヲ受クル

爲メ滞在ノ費用ハ自辨トス

○海軍志願兵家族扶助金支給規則 二十二年六月十二日

海軍志願兵家族扶助金支給規則 海軍省令第三號

海軍志願兵家族扶助金支給規則

- 第一條 家族扶助金ハ志願兵ノ家族附籍ハアル者ニ限リ入營ノ日ヨリ現役ヲ離レタル日マテ支給ス
- 第二條 一日金五錢七厘ヲ給スル者ニ再服役ヲ許シタルトキハ再服役ノ日ヨリ一日金貳錢七厘ヲ支給ス
- 第三條 家族扶助金ハ毎月末日 十二月ハ本人所轄廳所轄廳トハ艦船團其他下士卒ヲ 前日ニ繰上ケ支給スヘシ(二十三年二月十四日海軍省令) 直轄スル廳ヲ云フ以下之ニ同シ 二於テ支給シ其日休暇ニ當ルトキハ但服役場所ニ異動アルモ本文ニ同シ
- 第四條 免官免役死亡若クハ現役ヲ退キタルトキハ前條ノ支給定日ニ拘ハラス其當日マテ其際支給スヘシ
- 第五條 單身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキハ其報告本人所在ノ廳ニ到達ノ日ヨリ家族扶助金ヲ支給ス
- 第六條 海軍部内ニ於テ會計ヲ異ニスル廳ヨリ借用シタル者ノ家族扶助金ハ本廳發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日マテ借用廳ニ於テ支給スヘシ
- 海軍部外ノ各廳へ貸與シタル者ニハ發程ノ翌日ヨリ歸廳ノ當日マテ支給セス
- 奏樂ノ爲メ一時貸與スル軍樂員ハ前二項ノ限ニアラス
- 第七條 家族扶助金ハ處刑前收禁拘留若クハ遞傳送中ノ者又ハ擅ニ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者ニハ其當日ヨリ歸廳ノ當日マテ之ヲ支給セス但無罪免罪若クハ無罰トナリタルトキハ之ヲ追給スヘシ(上全)
- 第八條 事故アリ追給若クハ追徵スヘキモノアルトキハ翌月以降ニ於テ支給若クハ控除スルコトヲ得但會計ヲ異ニスル廳ニ涉ル追徵追給ハ各其廳ニ於テ追徵追給スヘキモノトス

第六類 第六章 海軍徵募

第九條 家族扶助金ハ所轄廳ニ於テ本人ニ渡シ官費ヲ以テ其家族ニ送附ス但家族ヨリ請願アルトキハ本人ニ下附スヘシ

第十條 (二十三年四月二十三日海軍省令第七號ヲ以テ別除ス)

第十一條 死亡者若クハ逃亡者ニ支給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ依リ之ヲ下付スヘシ

第十二條 家族扶助金ヲ受クル者家族ニ異動アルトキ若クハ轉居轉籍シタルトキハ家族又ハ親族ヨリ地方廳ニ届出テ各地方廳ハ其都度其在籍ノ領守府海兵團ニ報告スヘシ置身ノ下士卒家族ヲ有シタルトキ亦同シ(全上改正)

第十三條 海兵團ニ於テ前條ノ報告ヲ得タルトキハ直ニ本人所在ノ廳ニ轉送スヘシ

第十四條 本年五月三十一日マテハ従前ノ例規ニ依リ横須賀鎮守府ニ於テ取扱フヘシ

第十五條 舊規則ニ依リ一箇年拾圓ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ依リ一日金貳錢七厘ヲ支給ス

第十六條 舊規則ニ依リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年六月一日ヨリ九月三十日マテ日割計算ヲ以テ志願兵徵募規則ニ依リ支給スルモノトス

第十七條 前條ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月一日ヨリ志願兵徵募規則ニ依リ一日金五錢七厘ヲ支給ス

○海軍下士服役條例(二十二年四月二十九日勅令第五十六號)

朕海軍下士服役規則ヲ廢止シ海軍下士服役條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十六號

海軍下士服役條例

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二年以上十六箇年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シ滿十六箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム(二十三年二月勅令第六號ヲ以テ改正)

第三條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期懲罰逃亡中ノ日數ハ服役年數ニ算入セス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母(父母ナキトキハ親族若クハ近隣戸主三人以上)ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナリタル爲メ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限ニ在ラス

第五條 前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷痕若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第七條 現役中傷痕若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第八條 服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

第九條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條 (同上) (削除)

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

○海軍下士卒再服役條例 二十二年四月二十九日 勅令第五十七號

朕海軍下士卒再服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十七號

海軍下士卒再服役條例

第一條 現役滿期ノ下士卒再ヒ現役ニ服センコトヲ欲スルトキハ艦團長其他直屬ノ長官ニ請フコトヲ得

第二條 再服役ハ滿三年ヲ以テ一期トシ毎期之ヲ請フコトヲ得

第三條 再服役ハ志操忠實品行善良ニシテ技能アル者ニアラサレハ之ヲ許可セズ

第四條 再服役ハ艦團ニ於テハ艦團長諸官解ニ於テハ直屬ノ長官之ヲ許可シ其誓約ヲ爲サシム可シ

第五條 再服役中轉艦若クハ轉團又ハ轉職セシムルコトアルモ從前ノ誓約ハ新々ニ屬スル所ノ艦團長若クハ直屬ノ長官ニ移ルモノトス

第六條 再服役中傷痕若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ再服役ヲ停止ス
第七條 再服役中傷痕若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ服役ヲ免ス
第八條 再服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第九條 海軍下士卒服役條例制定以前艦内教授警吏ニ任シタル下士ニハ再服役ヲ許サス

○海軍下士卒服役條例制定ニ附從前ノ退職下士ハ免官ト心得元海軍某官ト稱セシム 二十二年五月一日 海軍省告示第五號

本年四月勅令第五十六號海軍下士卒服役條例公布ニ依リ從前ノ退職下士ハ免官ト心得自今元海軍某官ト稱スヘシ

○海軍准士官及徵兵ノ後備役、志願兵ノ豫備役滿期ノトキ並ニ豫備ニ入ル者ハ辭令ヲ用ヒ

海軍省告示第八號 海軍准士官後備役滿期トナリ海軍志願兵豫備役滿期トナリ海軍徵兵後備役滿期トナリタルトキハ辭令ヲ用并ス准士官下士ハ免官卒ハ免役トス

豫備ヨリ後備ニ入ル者ハ辭令ヲ用并ス豫備滿期トナリタルトキハ後備トス

第七類

第一章 教育ニ關スル勅語 學事通則

○教育ニ關スル勅語ニ付訓示 二十三年十月三十一日 文部省訓令第八號 北海道廳府縣

今般教育ニ關シ

勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本ヲ頒チ本大臣ノ訓示ヲ發ス管内公私立學校へ各一通ヲ交付シ能ク

聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

○同上直轄學校ニ達ス 二十三年十月三十一日 文部省訓令直轄學校

今般教育ニ關シ

勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク

別紙

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲

ヲ重シ國法ニ遵ヒ一日緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ
ハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬
ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ成其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日

御名 御璽

訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ恭ク

勅語ヲ下タシタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ嚮フ所ヲ愆ランコト
ヲ恐ル令

勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ

勅語ノ謄本ヲ作り普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體

シテ研磨薰陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ
勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

明治二十三年十月三十一日

文部大臣 芳川顯正

○諸學校通則 十九年四月九日 勅令第十六號

朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十六號

諸學校通則

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附
シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立
ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘ
ク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府
知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ
○公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ地租地方稅ヲ免ス 年十六
年十六

二月二十一日
第四十四號布告

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以内其地租及ヒ地方稅ヲ免ス

第七類 第一章 學事通則

右奉 勅旨布告候事

九百八

○府縣立醫學校費用支辨方

二十九年九月三十日 勅令第四十八號

朕府縣立醫學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十八號

府縣立醫學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○學齡未滿ノ幼兒保育方 十七年二月十五日 文部省達第三號府縣

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候條
取計フヘシ此旨相達候事

○徵兵事務條例ニ依リ生徒ヘ在學證明ヲ交付セシム 十八年一月十二日 文部省達第一號府縣

府縣ニ於テ徵兵事務條例第十六條但書ニ據リ生徒ヘ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ此旨相達候事
書式 用紙公用野紙紙質適宜

證明書

族籍 姓 名 年齡

右ハ本校何學科何級修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ課程ヲ卒リタル者ナリ依テ之ヲ證明ス
年月日

何府縣立何學校長姓名印

○地方學事通則

二十三年十月二日 法律第八十九號

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八十九號

地方學事通則

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第百十七條ヲ適用ス

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ敷區ニ分畫ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第百十三條町村制第百十
四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ敷區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ
又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔
スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル
國ノ教育事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村
ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第七類 第一章 學事通則

九百九

第四條

町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

九百十

第五條

町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

第六條

府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條

市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第二十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條

府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條

府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財產

ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ノ廢設並支消賣却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

學校基本財產ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條

府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財產トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財產トナスコトヲ得

府縣郡ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財產トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十一條

從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十二條

府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ内務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條

本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知

事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第二章 大學 師範學校 中學校 小學校 特別認可學校

○大學令 十九年三月一日 勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號

帝國大學令

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス
- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

勅任

評議官

書記官

奏任

第七類 第二章 大學

書記 判任

第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事

第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事

第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス
評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

第一 學科課程ニ關スル事項

第二 大學院及分科大學ノ利害ノ銷長ニ關スル事項

第八條 評議官ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充ツ

第九條 評議官ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ勤績ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學及理科大學及農科大學トス(二十三年十一月六日勅令第一十一日勅令第九十三號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス

農科大學ヲ分テ農學科林學科及獸醫學科ノ三部トス(全上追加)

第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ(二十三年十一月六日勅令第一二二六十九號ヲ以テ改正)

長 奏任

教頭 奏任

教授 奏任

助教授 奏任

舍監 奏任

書記 判任

拔手 判任

教授ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ又長及教頭ハ勅任ノ教授ヨリ兼任ノ者ハ勅任トス

第十二條 分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス
分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 各分科大學ノ教頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス
教頭ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條 各分科大學ノ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應シテ別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○師範學校令 十九年四月九日 勅令第十三號

朕師範學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十三號

師範學校令

- 第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス
但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス
- 第二條 師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス
- 第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ
但尋常師範學校附屬小學校ノ經費簡易科ニ係ルモノヲ除クハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ(二十年七月六日勅令第三十號ヲ以テ但書ヲ追加ス)
- 第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ
- 第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ
- 第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條 師範學校ノ學科及其程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○尋常師範學校設備準則ヲ定ム二十一年八月二十一日 文部省訓令第一號 北海道廳府縣

尋常師範學校設備準則別冊ノ通相定ム

但別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

○尋常師範學校長教員幹事舍監執務上著服ノ件二十一年九月十五日 文部省訓令第二號 北海道廳府縣

尋常師範學校職員ノ儀ハ殊ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保タシムルコト職務上必要ニ付自今該學校長教員幹事舍監ハ執務上一定ノ服ヲ着用セシムヘシ

但本文改正一時ニ行届キ難キモノハ來明治二十二年六月迄猶豫スルコトヲ得

○高等師範學校ノ學科及其程度十九年十月十四日 文部省令第十七號

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ高等師範學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校ノ學科及其程度

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ男子師範學科及女子師範學科トス

第七類 第二章 師範學校

- 第二條 男子師範學科ヲ分チテ理化學科博物學科及文學科トス
- 第三條 理化學科ハ教育學倫理學英語數學物理學化學手工圖畫及音樂體操トス
- 第四條 博物學科ハ教育學倫理學英語有機化學鑛物學地質學植物學動物學生理學農業園藝及音樂體操トス
- 第五條 文學科ハ教育學倫理學國語漢文英語地理歷史理財學哲學及音樂體操トス
- 第六條 各學科ノ程度左ノ如シ

理化學科
 教育學
 倫理學
 教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習
 人倫道德ノ要旨

英語
 講讀 作文 翻譯
 數學
 代數 幾何 三角術 測量 解析幾何 微分積分大意

物理學
 力學 熱學 音響學 光學 越歷學 磁氣學 實驗 天文 氣象
 化學
 無機化學 有機化學 實驗 定性及定量分析

手工
 木工金工ノ道具用法 簡易ノ水金器具製造

圖畫

用器畫法

音樂

溫習

體操

普通及兵式體操

博物學科

教育學

倫理學 教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨

英語

講讀 作文 翻譯

有機化學

總論 炭素化合物分類及特論

鑛物學地質學

鑛物總論 鑛物特論 鑛物鑑識 構造地質 諸力ノ作用 地質沿革

植物學

植物分類 植物組織 植物生理 實驗

動物學

第七類 第二章 師範學校

動物分類 動物組織 動物發生 實驗
 生理學
 總論 骨節 筋肉 皮膚 循環 呼吸 消化 神經 特感 衛生 實地解剖
 農業
 土ノ成分分類植物ノ成分等 肥料ノ用法家畜ノ撰擇保護等 耕作ノ實業 器具ノ用法
 圖誌
 臨畫 投影畫法 照鏡法 寫生
 音樂
 溫習
 體操
 普通及兵式體操
 文學科
 教育學
 倫理學
 教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習
 人倫道德ノ要旨
 國語漢文
 日本ノ文法文學及作文 支那ノ文法文學及作文
 英語
 讀誦 作文 翻譯

地理歴史

政治地理 日本歴史 外國歴史

理財學

大意

哲學

心理 論理 哲學史

音樂

溫習

體操

普通及兵式體操

第七條 理化學科博物學科及文學科ノ修業年限ハ三箇年トス

第八條 理化學科博物學科及文學科ニ於テハ各三學級ヲ設ケ每學級ノ授業時限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第九條 理化學科博物學科及文學科ノ授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ

	教 育 學	倫 理 學	英 語	數 學	第一 年	第二 年	第三 年
					四	三	十三
					六	五	三
					六	三	二

文法 讀讀 作文 文學沿革ノ大略
 英語
 讀法 文法 翻譯 作文
 數學 算記
 算算 珠算 代數 幾何 單記複記
 地理 歷史
 日本地誌 外國地誌 地文概論 日本歷史 外國歷史
 博物
 動物植物礦物地質ノ大要 人身生理及衛生
 物理化學
 理論及實驗
 家事
 衣食住金錢ノ出納等ニ係ル事項及裁縫具ノ用法各種衣服裁縫等ノ實業 管理ノ心得
 習字 圖畫
 楷書 行書 草書 自在書法及用器器法
 音樂
 單音唱歌 複音唱歌 樂器用法及音樂上ノ名稱記號 旋律和聲拍子等ノ要略
 體操
 準備法 美容術 徒手啞鈴棍棒球等ノ諸體操
 第十二條 女子師範學科ノ修業年限ハ四箇年トス

第十三條 女子師範學科ニ於テハ四學級ヲ設ケ每學級ノ授業時間ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス
 第十四條 女子師範學科ノ授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ
 女子師範學科

	倫	教	國	英	數	地	博	物	家	習	音	體
第一	二	二	五	六	三	四			三	四	二	三
第二	二	二	三	四	三	三			三	三	二	三
第三	二	四	二	三	二	三			四	三	二	三
第四	二	十四		三	二				三	四	一	三

○女子高等師範學校

二十三年三月二十四日
勅令第四十二號

九百二十六

朕女子高等師範學校設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十二號

高等師範學校中女子部ヲ分離シテ女子高等師範學校トス

○尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ定ム
十九年五月二十六日
文部省令第九號

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校ノ學科及其程度

第一條 尋常師範學校ノ學科ハ倫理 教育 國語 漢文 英語 數學 簿記 地理 歷史 博物 物理 化學 農學 手工 習字 圖畫 音樂 體操トス
(二十二年十月二十五日文部省令第八號ヲ以テ但番別除)

第二條 各學科ノ程度左ノ如シ

倫理

人倫道德ノ要旨

教育

總論 智育 體育 德育 ノ 理 學校ノ 設置 編制 管理 ノ 方法 教育ニ 關スル 本邦 法令 本邦 教育 史 外國 教育 史ノ 概略 教授ノ 原理 各 學科ノ 教授 法 及 實地 授業 (二十一年十月三日訓令第五號ヲ以テ(教育)云々ノ十字ヲ追加ス)

國語

日本ノ 文法 文學 要略 及 作文

漢文

支那ノ 文法 文學 ノ 要略

英語

綴字 習字 讀法 文法 及 翻譯

數學

計算ハ 命位 記數 四則 分數 小數 比例 利息 算 自乘法 開平 開立 求積 法

珠算ハ 加減 乘除 及 四則 雜題

代數ハ 釋義 記法 符號 四則 分數 一次 方程式 自乘法 求根 法 指數 法 二次 方程式 比例

幾何ハ 定義 公理 直線 直形 圓 積 比例 平面 立體 角

簿記

單記 及 複記

地理 歷史

地理ハ 總論 日本 地誌 外國 地誌 ノ 要略 製圖 法 及 地文 ノ 概論

歷史ハ 日本 歷史 及 外國 歷史 ノ 要略

博物

植物ハ 總論 根 莖 葉 花 實 等 ノ 形 論 及 其 作用 生活 種類 分類 法 解剖 法 記述 法 採集 法 ノ 要旨 及 隱花 植物 形質 ノ 概略

動物ハ 總論 有脊 動物 及 無脊 動物 中 ノ 主要 ナル 諸綱 ノ 論 及 其 解剖 ノ 初步 本人 身 生理 ノ 要旨

礦物ハ 總論 形 像 化學 及 物理 上 ノ 性質 等 及 鐵 錳 銅 金 鑽 石 類 諸 論 普通 礦物 鑑識 ノ 概略

物理 化學

物理ハ 總論 力 學 物 質 論 熱 學 音 學 電 學 磁 學 氣 學 ノ 要略

第七類 第二章 師範學校

九百二十七

二十五日
文部省令第八號

明治十九年五月文部省令第九號尋常師範學校ノ學科及其程度第一條中家事ノ二字及同條但書全文第二條中家事ニ關スル項第五條授業時間配當表中家事及其授業時數竝ニ女生徒ニ課スル音樂體操ノ時數ヲ刪除シ更ニ尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科及其程度

第一條 尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科ハ倫理教育國語算學地理歷史理科家事習字圖畫音樂體操トス

第二條 各學科ノ程度左ノ如シ

倫理

人倫道德ノ要旨

教育

總論智育德育體育ノ理學校ノ設置編制管理ノ方法教育ニ關スル本邦法令教授ノ原理各學科ノ教授法及實地授業

國語

日本ノ文法文學ノ要略及作文

算算ハ命位記數四則分數小數比例利息算自乘法開平開立求積法珠算ハ加減乘除及四則雜題

幾何ノ大意

地理歷史

地理ハ總論日本地誌外國地誌ノ要略及地文ノ概論

歷史ハ日本歷史及外國歷史ノ要略

理科

博物生理及物理化學ノ要略

家事

衣食住作法育兒等ニ關スル事項簿記裁縫

習字圖畫

習字ハ楷書行草書

圖畫ハ自在畫法及用器畫法ノ要略

音樂

單音唱歌複音唱歌樂器用法及音樂上ノ名稱記號旋律和聲拍子等ノ要略

體操

普通體操

第三條 尋常師範學校ノ女生徒ノ修業年限ヲ三箇年トシ一學年ヲ以テ一學級トス

第四條 尋常師範學校ノ女生徒ノ授業時限ハ一年四十週一週三十一時以上トス

第五條 各學科授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ

尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科授業時間配當表

	第一	第二	第三
倫理	一	一	一
教育	三	五	六 二八
國語	五	四	四
算學	三	三	三

地理	歷史	四	理科	博物生理	二	家事	裁縫	三	習字	圖畫	四	音樂	體操	三
	物理化學	二		辨記	三		習字	三		體操	三			

○高等師範學校生徒募集規則 十九年十月十四日

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

- 第一條 高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選舉シ高等師範學校長其中ニ就キ選拔スルモノトス
- 第二條 高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選舉シ女生徒ハ尋常師範學校ノ二箇年ノ課程ヲ終リタルモノ若クハ之二均シキ學力並資格ヲ有スルモノヨリ選舉スヘシ

- 第三條 高等師範學校ノ男女生徒ハ毎年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都府縣高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ
- 第四條 新募生徒ハ初メ試驗生トシテ三箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ

○高等師範學校卒業生服務規則 十九年十月十四日

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

- 第一條 高等師範學校男子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第二條 高等師範學校男子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス
- 第三條 高等師範學校女子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス
- 第四條 高等師範學校女子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

○尋常師範學校生徒募集規則 十九年五月二十八日

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校生徒募集規則

- 第一條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集スヘシ
 - 一 身體強健ニシテ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達シ得ヘキト認ムルモノ
 - 一 高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ

第七類 第二章 師範學校

一男子ハ齡十七年以上三十年以下女子ハ齡十五年以上三十年以下ノモノ(三十二年十月二十五日文)
但第二條第一種ノモノハ此限ニアラス(部省令第九號ヲ以テ改正)

一其府縣下在籍ノモノ

第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ

第一種 郡區長ノ薦舉ニ係ルモノ

第二種 直ニ師範學校ニ願出タルモノ

第三條 尋常師範學校ニ於テハ入學志願者ノ身體學力等ヲ檢定シテ之ヲ選ブヘシ

身體ノ檢定ハ府縣立病院或ハ他ノ適當ノ醫員ヲシテ施行セシメ學力ノ檢定ハ高等小學校ノ學科程度ニ依テ之ヲ施行スヘシ

第四條 生徒ノ募集ハ毎年一度學期ノ始ニ於テシ其期日及員數ハ其都府前以テ廣告スヘシ

第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ一箇月以上三箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ

第六條 入學志願者ノ願書薦舉書及履歷書ハ左式ニ依テ之ヲ出スヘシ

第一種志願者願書式

某志願者 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度何郡區長薦舉書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

入學志願者 姓

當何年何月幾年幾月

年月日

名印

何師範學校長某殿

薦舉書式

族 籍

姓 名

右ノ者儀豫テ當郡區内小學校教員志願ニ付今般御校生徒ノ募集ニ應シ入學志願ノ旨申出候尤同人儀ハ別紙履歷書ノ通何年何月當郡區何小學校卒業生ニシテ爾來何職ニ從事シ若クハ何郡區何學校ニ於テ何科ヲ修メ云々其資性品行ニ付テハ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達スルニ適スル者ト認メ候ニ付薦舉候也

何郡區長 姓

名印

年月日

何師範學校長某殿

第二種志願者願書式

某志願者 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度尤某ノ身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受クヘク候間別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

入學志願者 姓

當何年何月幾年幾月

年月日

何府縣何國何郡區何町村何番地居住

何府縣華士族平民

保證人 姓

名印

第七類 第二章 師範學校

九百三十五

何師範學校長某殿

前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

年月日

履歴書式
履歴書

何府縣何國何郡區長

姓名印

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

姓名印

生所何府縣何國何郡區何町村

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一 何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

卒業證書ノ寫

何々

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何誰ニ就キ何事修業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校補助員ニ雇ハル

一 何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ

何々

年月日

第七條 保證人ハ其府縣下ニ本籍ヲ定メ現ニ入學志願者居住ノ郡區内ニ居住スル戶主タルヘシ
但師範學校長ニ於テ保證人ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第八條 保證人ノ住所師範學校ノ所在地ヨリ一里以外ニアルモノハ別ニ其以内ニ居住若クハ寄留スルモノヲ以テ保證人

代理者トナシ豫テ其學校ニ届置不時急劇ノ用ニ應スヘシ

但師範學校長ニ於テ保證人代理者ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第九條 尋常師範學校生徒ノ員數ハ左表ノ如シ

尋常師範學校生徒員數表 (二十年十二月十二日文部省令第十三號ヲ以テ改正追加ス)

府縣名	生徒數	府縣名	生徒數	府縣名	生徒數	府縣名	生徒數
東京	一〇〇	群馬	一四〇	山梨	一〇〇	山形	一五〇
京都	一五〇	千葉	一五〇	滋賀	二〇〇	秋田	一五〇
大阪	一八〇	茨城	一四〇	岐阜	二〇〇	福井	一四〇
神奈川	一二〇	栃木	一〇〇	長野	二〇〇	石川	一五〇
兵庫	二〇〇	奈良	一〇〇	宮城	二〇〇	富山	一四〇
長崎	一二〇	三重	一五〇	福島	一八〇	鳥取	一〇〇
新潟	二四〇	愛知	二〇〇	岩手	一五〇	島根	一四〇
埼玉	一五〇	静岡	一五〇	青森	一二〇	岡山	一八〇

廣島	一八〇	徳島	一四〇	福岡	一五〇	熊本	一五〇
山口	一五〇	愛媛	二〇〇	大分	一四〇	宮崎	一〇〇
和歌山	一四〇	高知	一五〇	佐賀	一〇〇	鹿兒島	一五〇

北海道及沖繩縣ハ追テ之ヲ定ムヘシ

第十條 郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ノ員數ハ郡區長ノ所轄區域毎ニ府縣知事之ヲ定ムヘシ
第十一條 郡區長ノ薦舉ニ關スル方法ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ム 十九年十二月二十二日 文部省令第二十一號

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校卒業生及丁年以上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男子師範專科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ女子師範專科卒業生ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ體操專修科卒業生ニハ體操ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラスシテ某學科ノ教員免許狀ヲ得ント欲スルモノハ文部省ノ檢定ヲ受クヘシ
第四條 檢定ハ文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム(二十二年六月十二日文部省令) 第四號ヲ以テ本條中ヲ削除ス

第五條 檢定ノ要目左ノ如シ

一學力

一品行

一身體

第六條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員タルニ適スヘキ學力アリト認ムルモノニ限リ特ニ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

第七條 試驗ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願ノ學科ニ就テ之ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ検査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ記シタル願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付意見ヲ付記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

但檢定方出願ノ時期ハ文部大臣之ヲ定メテ告示スルモノトス(同上追加)

一學業業務賞罰等ノ履歴ニ係ル書面

一學業證書免狀ノ寫

第十條 檢定ヲ受ント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ

其既ニ差出シタル檢定料ハ願下ヲナシ若クハ試驗ニ應セサルトキト雖モ之ヲ還付セサルモノトス(二十年十月二十七號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十一條 免許狀ハ分チテ一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第六條但書ニ依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノモノヲ得ント欲スルモノ及無等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ二箇年以上教職ニ從事シ其性格能幹超

第七類 第二章 師範學校

衆ノモノニ限リ授取スルモノトス

- 第十二條 免許狀ヲ受クルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其替換ヲ請フモノハ替換料金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第十四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ルハモノニハ免許狀ヲ授取セス又既ニ授取シタルモノト雖モ之ヲ沒收ス
但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ
- 一新法ニ依リ輕重懲罰以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ
- 但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕懲罰ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス
- ソニアラス

- 一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ
- 一身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ
- 一荒蕪暴激等總テ教員タルノ面ニ關スル所行アルモノ
- 一舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖鑕ノ刑ニ處セラレタルモノ
- 但罰金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス
- 一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小殘疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ
- 第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

免許狀様式

何等免許狀(第六條但書ニ依リ授取スルモノハ等ヲ付セス)

族籍

姓	名
生	年 月 日
年	文 部 省 印
右何學校(何科)教員タルコトヲ免許ス	文部大臣位勳爵姓名印
割印	番 號

輪廓ハ高等師範學校卒業生ニ授取スルモノハ紅色トシ第六條ニ依リ授取スルモノハ綠色トシ第六條但書ニ依リ授取スルモノハ藍色トス

○同上規則發令前授取シタル免許狀及卒業證書ノ效 十九年十二月 文部省令第二十二號

文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則發令前文部省ニ於テ授取シタル中學校師範學校教員免許狀及東京師範學校ニ於テ授取シタル中學校師範學校卒業證書ハ尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ト同一ノ效ヲ有スルモノトス

○尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則但書ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ 隨時出願スルヲ得 二十二年六月十二日 文部省告示第五號

明治十九年十二月 文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則第六條但書ニ依リ檢定ヲ受ケン

第七類 第二章 師範學校

トスルモノニ限リ何時ニテモ出願スルコトヲ得

○從前小學師範學校卒業生ニ授與セシ卒業證書有効年限 二十二年十月二十五日
明治十八年八月以後東京師範學校ニ於テ小學師範學校卒業生ノ者又ハ明治十九年四月以後高等師範學校ニ於テ舊東京師範
學校所定ノ小學師範學校卒業生ノ者ニ授與シタル卒業證書ハ其證書面ニ記載ノ日ヨリ七箇年間小學教員免許狀ト同一ノ
効ヲ有スルモノトス

但有効ノ期間ニ至リタル者ハ明治二十年^六文部省令第六號ニ準據スルコトヲ得又本文ノ證書ヲ有スル者ニシテ明治十
九年^六文部省令第十二號小學教員免許規則第十二條ノ一項若クハ收項ニ觸ル、者ハ本文教員タルノ効力ヲ失ハシム

○尋常師範學校卒業生服務規則 十九年五月二十八日
文部省令第十一號
勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校卒業生服務規則

第一條 尋常師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ男子八十箇年女子ハ五箇年トシ其間教職ニ從事スルノ
義務ヲ有スルモノトス(二十二年十月二十五日文部省令
第十號ヲ以テ本條中ヲ追加ス)

第二條 尋常師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年間其府縣知事指定ノ學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノト
ス

但郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ卒業證書受得ノ日ヨリ男子ハ五箇年間女子ハ二箇年間其郡區長指定ノ小學校ニ奉職ス
ルノ義務ヲ有スルモノトス(上)

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アル者ハ其理由ヲ具シテ府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ終ヘタル者ハ其經歷書ヲ具シテ其府縣廳ニ届ケ出ヘシ

第五條 謂ハレナク第一條第二條ノ義務ヲ盡サ、ルモノ或ハ服務年限内ニ於テ品行不正ニシテ其職務ヲ免シタルモノア
ルトキハ其都府縣知事之ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

第六條 府縣知事ハ服務規則ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

○尋常師範學校生徒ニ退學ヲ命スル片ハ在學中給與セル學資ヲ償還セシム 二十二年十月二
十五日文部省訓
令第四號北
海道廳府縣

尋常師範學校生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命スルモノアルトキハ在學中給與シタル學資ヲ償還セシムヘシ

○中學校令 十九年四月九日
勅令第十五號

朕中學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十五號

中學校令

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教
育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等中學校ハ全國^{北海道河}五區ニ分畫シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大
臣ノ定ムル所ニ依ル

第七類 第二章 中學校

第五條 高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域内ニ在ル府縣ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費分擔ノ方法等ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ

第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

○高等中學校經費支辨方二十年八月一日 勅令第四十號

朕高等中學校經費支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十號

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ查定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定ス可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

○高等中學校設置區域内府縣委員會規則二十年九月九日 勅令第四十六號

朕高等中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十六號

高等中學校設置區域内府縣委員會規則

第一條 委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以内

トス但各府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スル事ヲ得

第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第三條 委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス

但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條 府縣會規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七

條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中

府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

○公立小中學校專門學校設置ノ地所無代價下渡方十三年一月二十九日 太政官達第六號府縣

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第百三十一號ヲ以テ相達置候處今般教習令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ内務省ヘ可申出此旨相達候事

○高等中學校ノ學科及其程度ヲ定ム 十九年七月一日 文部省令第十六號

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ高等中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ
高等中學校ノ學科及其程度

- 第一條 高等中學校ノ學科ハ國語漢文第一外國語第二外國語雜句語地理歷史數學動物植物地質礦物物理化學天文地理學法學通論哲學圖畫力學測量及體操トス第一外國語ハ通常英語トシ第二外國語ハ通常獨語若クハ佛語トス(二十一年七月六日文部省令第四號ヲ以テ改正)
- 第二條 高等中學校ノ修業年限ハ二箇年トス
- 第三條 高等中學校ニ於テハ二級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス
- 第四條 高等中學校ノ學科ハ一部二部三部ニ分チ各生徒ヲシテ其一ヲ修メシム各學科毎週授業ノ時數凡左ノ如シ(二十一年七月六日文部省令第四號ヲ以テ改正)

學科	第一部		第二部		第三部	
	第一	第二	第一	第二	第一	第二
國語及漢文	三	三	三	三		
第一外國語	四	四	四	四		
第二外國語	四	四	四	四	六	六
雜句語		二		二		二

學科	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十
地理	二	二																		
歷史	三	三																		
數學	三	三																		
動物及植物																				
地質及礦物																				
物理	二	二																		
化學																				
天文																				
理財學																				
法學通論																				
哲學																				
圖畫																				
力學																				
測量																				
體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

一部ニ於テハ第二外國語雜句語ノ一科若クハ二科ヲ缺キ二部ニ於テハ第二外國語雜句語哲學ノ三科ヲ缺キ若クハ圖畫測量ノ二科ヲ缺キ若クハ圖畫ノ時數ヲ減シテ雜句語測量ノ二科ヲ缺クコトヲ得

第五條 高等中學校ノ各學科ノ程度左ノ如シ
國語及漢文

漢字交リ文及漢文ノ諳讀作文

第一外國語

諳讀會話作文翻譯

第二外國語

前項ニ同シ

羅匈語

文法諳讀

地理

政治地理

歷史

希臘羅馬獨佛英米ノ歴史

數學

平面解析幾何立體解析幾何ノ初歩方程式論大意微分積分

動物及植物

醫科動植物學及人體解剖學

地質及礦物

大意

物理

理論及實驗

化學

無機化學有機化學理論實驗及分析

天文

初歩

理財學

大意

法學通論(二十一年七月六日文部省令第四號ヲ以テ追加)

大意

哲學

心理及論理

圖畫

畫法幾何及用器畫法

力學

運動學及分子固體液體ノ力學

測量

理論及實地演習

體操

兵式體操

第六條 高等中學校ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校ヲ卒業

第七類 第二章 中學校

シタルモノ若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノトス
 第二年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行身體年齡ノ資格前項ニ準シ其級ノ課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス
 第七條 高等中學校ニ於テハ豫科ヲ置クコトヲ得此場合ニ於テハ尋常中學校第三年級以上ノ學科及其程度ニ據ルモノトス

第八條 法科醫科工科文科理科農林商學等ノ外科ニ關スル學科及其程度ハ別ニ之ヲ定ム

○尋常中學校學科及其程度ヲ定ム 十九年六月二十二日 文部省令第十四號

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ尋常中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常中學校ノ學科及其程度

第一條 尋常中學校ノ學科ハ倫理國語漢文第一外國語第二外國語農業地理歷史數學博物物理化學習字圖畫唱歌及體操トス第一外國語ハ通常英語トシ第二外國語ハ通常獨語若クハ佛語トス但第二外國語ト農業トハ其一ヲ缺クコトヲ得又唱歌ハ當分ヲ缺クモ妨ケナシ

第二條 尋常中學校ノ修業年限ハ五箇年トス

第三條 尋常中學校ニ於テハ五級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第四條 尋常中學校ノ各學科授業ノ時數左ノ如シ

倫理	第一	第二	第三	第四	第五
國語及漢文	五	五	五	三	二
第一外國語	六	六	七	五	五

若クハ外國語	第一	第二	第三	第四	第五
地理	一	二	二	一	三
歷史	一	一	二	一	二
數學	四	四	四	四	三
博物	一	二	二	三	三
物理		一			三
化學				二	
習字	二	一			
圖畫	二	二	二		一
唱歌	二	二			
體操	三	三	三	五	五
計	二八	二八	二八	二八	二八

第二外國語ト農業トヲ並ヘ置クトキハ其一ヲ生徒ニ課スルモノトス

第五條 尋常中學校ノ各學科ノ程度左ノ如シ

倫理

人倫道德ノ要旨

國語及漢文

第七類 第二章 中學校